

令和3年度 事業報告

I. 事業総括	1
II. 役員名簿	4
III. 会員の現況報告	5
IV. 各会の報告	6
1) 総会	6
2) 理事会	7
3) ブロック代表者会・会長協議会	28
V. 各部事業報告	30
VI. 各部活動報告	31

I. 事業総括

令和3年度は理事の改選があり新理事会の互選により山田理事が代表理事に再選され、2期目3年目の事業運営にあたった。

相変わらずコロナ禍により事業運営には種々困難を来したが、一方、IT化、デジタル化にも努力し、理事会をはじめ各委員会でもzoomによる遠隔会議が多くなり、また学術部による臨床研究会、母体保護部による指定医師研修会などもリアルでできる時はリアルで、感染拡大時、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置などの行動制限によりリアルができなくともWeb配信などではほぼ予定に近い形で実施できた。

また、令和3年4月から事務局をMAコンベンションコンサルティングに委託し、事務局は新宿区から千代田区に移転した。膨大な量の事務引き継ぎは、令和3年1月～3月に行われ、それまでの事務局と新しい事務局で連携良く引き継ぎをしていただけたことは感謝に堪えない。何度も定年を延長し事務局をまわし、会員の先生達にも評判の良い塚原さん、経理を主に誠心誠意会務遂行の裏方をやってくださった林さんにこの場を借りて深甚なる感謝を申し上げる。新しい事務局への申し送り、丹念にやっていただきお陰で大きな混乱なく会員の先生方へのご迷惑も最小限で済んだものと考えている。また新事務局も松本琴さんを中心に大平彩美さんが補佐に入り鋭意頑張っている。

本会の目的は定款に明記してあるように女性の健康と母子保健を増進して国民の福祉に寄与し、あわせて会員相互の親睦と研修につとめることにある。この目的を達成するため、定款に沿った6事業についてその主な報告をする。

1) 女性の保健・医療・福祉に関する事業

主に医業対策部、医療事故対策部、病院部、がん対策部が担当した。

医業対策部では、妊娠期から産後までの支援を必要とする養育者への切れ目のない支援体制の構築として、産婦健診公費助成の全都的実施を目指して活動した。五者協で区市町村が実施主体とされたが、実施がむずかしく東京都医師会、地区医師会へ働きかけを行い、全都的実施を模索している。また東京都人権部と性犯罪性暴力被害者支援研修会を開催し、被害者支援の実効性を高める取り組みを行った。

働く女性が不妊治療に取り組みやすい職場環境整備支援に取り組んだ。

更に、都の災害時周産期医療体制の構築への協力、児童相談所および要保護児童対策地域協議会における専門人材確保等および速やかな虐待通告の周知、キャッシュレス決済に向けた情報収集と手数料問題の解決に向けた連携に努力した。

委員会は3回開催、また日本産婦人科医会医業推進委員会の令和3年度全国医業推進担当者伝達講習会に参加した。

医療事故対策部では、日本産婦人科医会及び東京都医師会と連携して偶発事例の情報収集を行った。また、医事紛争処理解析、ノンテクニカルスキルについてTAOG Newsなどで広報した。医療事故調査制度、妊産婦重篤合併症報告事業、JALA有害事象収集事業への対応、そして情報を集約して医療安全に向けて会員支援を行った。

病院部では、日本産婦人科医会勤務医委員会による産婦人科勤務医待遇改善と女性医師の就労環境アンケートにおける東京都のデータ分析を行い委員会で検討した。働き方改革やcovid-19 pandemicなどがあり今後も慎重な対応が必要である。

がん対策部では、例年の如く各地区の子宮がん検診、乳がん検診の実施状況を調査し、その結果を報告し、課題克服の徹底に努力した。具体的にはベセスダシステム導入の推進、マンモグラフィ

検診の推進。若年層における乳がん検診、超音波検診の検討。LBC導入の推進。HPVワクチン接種勧奨のより一層の推進などの活動を行った。

2) 母子保健に関する事業

主に母子保健部、学校保健部が担当した。

母子保健部では、東京都周産期医療協議会に参加し、周産期医療供給システムの構築・運営に協力した。また常位胎盤早期剥離、早産期の胎児機能不全に特化した胎児救急搬送システムが加わり運用されている。この有効性と浸透についての評価を行っている。また災害時の小児周産期医療体制の構築に協力、参加している。

この他、NCPR（新生児蘇生法）、母体救命講習会を開催した。新生児聴覚スクリーニング検査の実績と評価の検討、HTLV-1キャリア妊婦と出生児のフォローアップ体制の構築に東京小児科医会と協働し、ネットワークを構築した。

学校保健部では、東京都教育庁に協力し、都立学校41校、公立中学校29校に産婦人科医を外部講師として派遣し、性にかかわる教育を行った。また、新たな講師養成の為に会員向け講習会や養護教諭向け講演会を開催した。公立高校・中学校における性教育の取り組みに対して東京都医師会よりグループ医学賞を受賞した。

3) 母体保護法の適正な運営と実施・啓発に関する事業

主に母体保護部が担当した。

母体保護法指定医師研修会を開催することは、東京都医師会から本会に付託された重要な案件である。令和3年度は10月17日にハイブリッドで、令和4年2月13日にライブ配信で開催した。10月17日のハイブリッドでは一時画像が送れなくなるトラブルが発生してしまった事はお詫び申し上げなければならない。

現在都内指定医総数749名であり、うち405名がこの研修会を受講済みであり、令和4年度には残り344名の受講を果たさなければならないと見込まれる。

4) 会員の学術研修に関する事業

主に学術部が担当した。

東京産科婦人科学会との合同研修会並びに学会例会を2回、本会臨床研究会を1回、開催した。また東京産婦人科臨床フォーラム、女性医療フォーラムを共催した。

5) 会員の品位向上

主に献金部が担当した。

おぎゃー献金理念に適った障害養護施設の運営、大学の研究活動を支援することにより、障害児がより良い社会活動を送る一助となるべく審査し、本部に推薦した。

令和3年度は献金件数333件、献金額4,550,988円と件数、額共に減少した。

6) その他本会が目的達成に必要な事業

主に総務部、会計部、広報部が担当した。

総務部は、本会の根幹をなす事業を調整する部であり、令和3年度も令和2年度に引き続きコロナ禍で多くの会議がWeb開催となったが、事業計画通り、日本産婦人科医会・関東ブロック産婦人科医会・日本産科婦人科学会・関東連合産科婦人科学会・東京産科婦人科学会・日本医師会・東京都医師会との関係業務の推進と協力を行った。

令和3年度定時総会は令和3年6月19日にAP市ヶ谷にて開催された。また理事会は定時理事

会を11回、8月20日にcovid-19感染症蔓延に伴う東京都の周産期医療体制の確立を目指し臨時理事会を開催し、8月26日には都庁に出向き小池都知事に直接要望書を手交した。要望書は、1) covid-19感染妊産褥婦の全数把握と情報提供 2) 一般救急搬送と周産期搬送の連携強化 3) 妊産婦の特殊性を鑑みた自宅療養の指針の明示と環境整備 4) 妊婦及びその家族へのワクチンの優先接種の4項目である。

ブロック代表者会長協議会は令和3年6月19日と令和4年1月22日の2回、書面で開催した。

会計部

予算書・決算書を作成、事業計画に則った適切な予算の執行と経費の節約、法人会計基準（平成20年度会計基準）に準拠した会計処理を行なった。事務局をMAコンベンションコンサルティングに委託したため指導会計事務所も梶原会計から森下幸也税理士事務所に変更となった。

令和2年度決算は令和3年5月18日、定款第51条に基づき令和2年度会計監査会を行い、令和3年6月2日の理事会承認をへて令和3年6月19日の定時総会で承認された。また令和4年1月25日、定款第50条に基づき令和4年度の予算編成を行い、予算書を作制、令和4年2月2日理事会で承認を受けた。

広報部は、TAOGニュースを年4回、東京産婦人科医会会誌を年1回発行した。また本会ホームページにて最新情報の広報に努めた。

社会保険部は、会員の保険診療が円滑に行えるように支援した。令和3年10月31日に関東ブロック産婦人科医会社保協議会は神奈川県産婦人科医会担当で行われ質疑を行った。令和4年3月6日第307回臨床研究会（多摩ブロック担当）の保険コーナーで「2022年保険改訂に向けて」として講演した。

Ⅱ．役員名簿

会 長	山 田 正 興	会長
副会長	松 本 和 紀	総務・会計・学術・社会保険・医業対策・ 癌対策
副会長	対 馬 ルリ子	広報・母子保健・医療事故・学校保健
副会長	荘 隆一郎	母体保護・献金・病院
理 事	中 林 稔	総務・母体保護
理 事	坂 田 優	会計・医業対策
理 事	武 知 公 博	学術・母子保健
理 事	里 見 操 緒	広報・会計
理 事	中 野 義 宏	母体保護・広報
理 事	谷 垣 伸 治	母子保健・学術
理 事	前 村 俊 満	社会保険・病院
理 事	中 島 由美子	医業対策・学校保健
理 事	中 林 豊	医業対策・総務
理 事	岩 田 みさ子	医療事故・癌対策
理 事	水主川 純	病院・医療事故
理 事	木 口 一 成	癌対策・献金
理 事	堀 量 博	献金・社会保険
理 事	長 岡 美 樹	学校保健・広報
理 事	川 嶋 一 成	母体保護
監 事	中 林 正 雄	監査
監 事	中 井 章 人	監査

Ⅲ. 会員の現況報告

令和３年度会員数の増減

	令和３年４月１日現在	令和４年４月１日現在	増 減
会員総数	1,261名	1,269名	+8名
正 会 員	1,112名	1,113名	+1名
準 会 員	1名	0名	-1名
減免会員	93名	103名	+10名
免除会員	54名	52名	-2名
賛助会員	1名	1名	-

Ⅳ. 各会の報告

1) 総会

令和3年度定時総会

開催日時：令和3年6月19日（土）16：00～18：00

会 場：AP市ヶ谷

出席者：37名

（代議員 出席者12名、委任状提出者75名）

I. 報告事項

1. 令和3年度行事予定について
2. 各地区会長（支部長）・代議員の人事変更について
3. 令和2年度事業報告について
4. 令和2年度人工妊娠中絶統計・不妊手術統計の報告について
5. 令和2年度プレグランディン膣坐剤の報告について
6. 母体保護法に係る疑義について
7. 令和2年度臨床研究会報告
8. 機構専門医の手続きに関して
9. COVID-19感染拡大による診療実態調査報告
10. 会員医療機関におけるキャッシュレス決済の現状と課題
11. おぎゃー献金について
12. 令和3年度事業計画について
13. 令和3年度収支予算について
14. ブロック代表・会長協議会報告
15. 本会役員選挙に伴う選挙管理委員会の設置について
16. 定款施行細則の変更について
17. 東京の妊婦のコロナ感染状況について
18. その他
特になし

Ⅱ. 協議事項

- | | | |
|-------|----------------|----|
| 第1号議案 | 令和2年度決算に関する件 | 承認 |
| 第2号議案 | 負担金の徴収に関する件 | 承認 |
| 第3号議案 | 理事及び監事の選任に関する件 | 承認 |

議 長：田中 政信

副議長：倉島 富代

2) 理事会

令和3年度第1回理事会議事録

開催日時：令和3年4月7日（水）18：30～

理事定数：17名

出席者：山田会長、松本・高木・川嶋各副会長、中林稔・山田・武知・中野・里見・荘・谷垣・
宮崎・中島・中林豊・北井・木口・堀・対馬各理事、中林・中井各監事

I. 会長挨拶

コロナワクチン接種の状況に関して報告があった。

MA コンベンション 秋山、埜田、松本から挨拶があった。

総会の年であり、理事者の先生には今後の継続の有無につき連絡を戴きたい。

3月の臨床研修会に関してWeb配信に関して金銭面のサポートを東京都医師会へ要望。

妊娠届出が減っているため母子保健部を中心に今後の活動を考えていきたい。

女性保健には特にワンストップ支援センター、性教育指導が必要と考えている。

会費の徴収に関しては見直しが必要である。

母体保護法のQAに関して、会員専用HPへ提示していきたい。

II. 令和2年度第11回理事会議事録確認

III. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）

入会7名、退会9名

承認

2. 令和3年度理事会開催日（案）について（総務）

標記に関し資料を基に協議。

リアル会議は3回に1回程度 運用に関しては総務一任

承認

3. 6月19日開催 会長協議会・定時総会・懇親会について（総務）

標記に関し資料を基に協議。

承認

4. 東京産婦人科医会偶発事例報告の書式修正について（医療事故対策）

標記に関し資料を基に協議。継続審議とする。

承認

5. 医会封筒について（総務部）

総務で原案を作成し理事に回る。

承認

6. その他「交通費の取扱に関して」（学術）

理事・委員の交通費は振込みとしたが、その他の会議参加に関しても振込みとする。詳細に関しては山田会計担当理事に一任する。

承認

IV. 報告事項

1. 令和3年度臨時総会理事会（3/13）について（総務）

2. 令和3年度日産婦医会会費減免者（日産婦医会第94回総会承認）について（総務）

東京：6名

3. 令和3年度 ブロック代表者・地区会長・代議員について（総務）

4. 選挙管理委員会委員の選出について（総務）

5. 令和3年度事業報告の提出依頼について（総務）

6. 会費の納入状況について（会計）
7. 第306回臨床研究会について（学術）
8. 学会との合同研修会について（学術）
担当：城東・北ブロック 東京慈恵医科大学
日時：2021年5月15日 ハイブリッド開催 ライブ配信・オンデマンド配信方法
会場：JA 共済ビルカンファレンスホール
9. 今後の研修会について（学術）
10. 広報委員会（3/19）について（広報）
11. 母体保護法に係る疑義について
12. 東京都各科医会協議会（4/5）について（各科医会）
13. 厚労省 働く女性の母性健康管理に関する周知について（母子保健）
14. 性犯罪・性暴力被害者支援のための医療従事者向けの研修について（医業対策）
15. 偶発事例報告について（医療事故対策）
16. 医療事故対策委員会（3/5）について（医療事故対策）
17. 令和3年度おぎゃー献金 献金額と配分施設・大学について（献金）
18. 令和3年度「性教育の授業」アンケート結果について（山田会長）
19. 令和3年度専門医派遣事業・産婦人科実施予定について（学校保健）
20. 「日本産婦人科医師連盟への寄付金のお願い」について（山田会長）
21. 事務局の担当部について（総務）
22. その他
 1. 専門医について
学会専門医は今年まで以降は機構専門医のみ、東京産科婦人科学会事務局へ届出。
 2. 会員管理システムのIT化に関しては暫く時間がかかる。

理事会議長：山田 正興
議事録署名人：中林 正雄
中井 章人

令和3年度第2回理事会議事録

開催日時：令和3年5月12日（水）

理事定数：19名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・高木各副会長、中林稔・山田・武知・中野・里見・荘・谷垣・宮崎・
中島・中林豊・北井・水主川・木口・堀・吉野・対馬各理事、中林・中井各監事

I. 会長挨拶

令和2年度事業報告が完成、定時総会にそなえて見直しがあればお願いします。

II. 令和3年度第1回理事会議事録確認

III. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）

- 標記に関し資料を基に協議。入会者6名、退会者4名。承認
2. 令和3年度ブロック代表者会・会長協議会の次第・議題について（総務）
標記に関し資料を基に協議。6月19日土曜日15時から 於 AP市ヶ谷 承認
3. 令和3年度定時総会（6/19）の次第について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
4. 令和2年度事業報告について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
5. 定款施行細則変更について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
（理事選挙に関する細則について）
選挙管理委員会について以下の点を追加する。
4. 委員会は委員の過半数の出席がなければ開催することができない
5. 委員会の議決は委員の過半数を持って決定する
6. WEBでの開催も可とする（宮崎理事より提案）。
6. 敬人会勉強会のご案内について（総務）
日時：令和3年6月7日（月）18：30～
於：東京九段・ホテルグランドパレス 白樺の間
標記に関し資料を基に協議。承認
7. 合同研修会の参加費の徴収について（学術部）
標記に関し協議。
参加費は徴収し、後からブロックへの補助金から負担すること。承認
8. その他
（松本副会長）妊婦のコロナ感染状況について。
大阪では妊婦のコロナ感染が問題になってきている。できる限り、東京産婦人科医会理事で情報の共有を希望する。
（中井監事）12月までの都の資料はでているが、その後はまだでていない。資料を作成し、6月19日ブロック代表者会・会長協議会、総会にて報告する。
大阪は重症妊婦160人中ECMOが1人、人工呼吸器4人という報告があったが東京は状況が不明。
（谷垣理事）東大では24週で帝王切開になったケースがあるが詳細を知りたい。
（水主川理事）近医に雇っていた妊婦がコロナになり女子医大に入院、陰性になり戻っていくが、医会としては、そういう症例の対応把握が重要ではないのか？PCR陰性になってから戻りよう要請されるが、陰性になるまで時間がかかるのでそのあたりの対応を示せないか？
（中井監事）非妊婦では、観察期間に症状がなければ、PCR結果に拘わらず後方期間に戻しているが、それを妊婦に当てはめるよう医会が示唆するのは難しい。また、妊婦の場合、（無症状であれば）自宅療養可能という事になっていない、要請であれば入院とされたままである。
（谷垣理事）非妊婦での対応を紹介するにとどめるしかないのでは。
（中井監事）大阪では既に一般患者に対し施設がパンクしている、妊婦はそこまでではないが、危機感があり、経膈分娩にするとっている。
（山田理事）昨日、コロナに家族感染し、軽症だったので自宅安静し、陰性化したという妊婦が受診した。そういうケースを届ける義務はあるのか？
（中井監事）コロナ陽性になった時点で保健所に届ける（指定伝染病）ののだが、妊娠の有無を記載する設定がないので、統計はとれない状態。従って後から届ける義務もなく統計に反映されることもない。

(宮崎理事) 母子保健課が出している、コロナが心配な妊婦がPCR検査を受けられる事業内容はどうなっているのか？

(谷垣理事) 継続しています。

(宮崎理事) それは妊婦が入院するとき全例検査に費用を充てられるとしてはどうか？

(中井監事) 分娩前提なので36週前後が対象、実際の有効性を考えると積極的に周知しなくても良いのではないかな。

承認

IV. 報告事項

1. 令和3年度第1回選挙管理委員会について(総務)
2. 令和3年度感染症予防検討委員会委員の推薦について(総務)
3. 令和3年度東京都助産師定着促進協議会委員の推薦について(総務)
4. 令和3年度行事予定について(総務)
5. 変更登記手続き完了について(総務)
6. 臨床研究会・合同研修会について(学術)
7. 会誌54号の発刊について(広報)
8. 母体保護法指定医師研修会について(母体保護)
9. 令和2年度人工妊娠中絶統計について(母体保護)
10. 「妊産婦重篤合併症報告事業」への協力願いについて(医療事故対策部)
11. 令和3年度医療法第25号第1項の規定に基づく有床診療所への立入検査について(医業対策)
12. 偶発事例報告について(医療事故対策)
13. 予防医学協会子宮がん精密検査結果報告書の更新について(癌対策部)(資料17)
今週から精密検査結果報告書記載方式が変更になっている
14. その他
(山田会長) 予防医学協会の性感染症検査は6月をもって終了した。
(松本副会長) ミフェプリストンが治験終わり、日産婦学会で治験報告された。それを受けて、早晚認可されるであろう。扱いはまだ決まっていないが母体保護法指定と医業推進に影響が大きい、東京産婦人科医会としても注目していきましょう。
15. 5月開催委員会日程
 - 1) 第1回選挙管理委員会(5月10日 19:00～ ルーテル市ヶ谷センター会議室)
 - 2) 会計監査会(5月18日 19:00～ 事務局会議室)
 - 3) 第2回広報委員会(5月28日 19:00～ Web通信会議)

記録：中島由美子

進行：高木耕一郎

理事会議長：山田 正興

議事録署名人：中林 正雄

中井 章人

令和3年度第3回理事会議事録

開催日時：令和3年6月2日（水）

理事定数：20名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・高木・川嶋各副会長、中林稔・山田・武知・中野・里見・荘・谷垣・宮崎・中島・中林豊・北井・水主川・木口・堀・吉野・対馬各理事、中林・中井各監事

I. 会長挨拶

6月19日（土）の定時総会を控え、このメンバーとしては、最後の理事会となります。2年間一緒に仕事をしていただき、有難うございました。日本産婦人科医会報によると、新型コロナの影響で、人工妊娠中絶数15%減、出生数8%減という数字も出ていて、医業としては厳しい数字です。定時総会に向けて、審議よろしくをお願いします。

II. 令和3年度第2回理事会議事録確認

III. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）

標記に関し資料を基に協議。入会者2名、退会者3名。承認

2. 第1回ブロック代表者会・会長協議会の開催方法並びに定時総会の開催方法について（総務）

1) ブロック代表者会・会長協議会について、緊急事態宣言中のため、書面開催とする。承認

2) 定時総会については、予定通り、6月19日（土）16時よりAP市ヶ谷にて開催する。承認

3. 定時総会次第・資料と議案について

1) 令和2年度決算（案）に関する件

標記に関し資料を基に協議。承認

2) 負担金の徴収（案）に関する件

標記に関し資料を基に協議。承認

4. 第15回東京産婦人科臨床フォーラム共催について（学術）

標記に関し資料を基に協議。承認

5. 令和3年度各都道府県産婦人科医会 職務担当者の照合について（総務）

標記に関し資料を基に協議。承認

6. 令和3年度ブロック代表者会・会長協議会

「多摩ブロックからの要望事項について」（山田会長）

多摩ブロックより、オンライン会議を行うため、Zoomのアカウントをもう1つ契約して欲しいと要望があった。1つだけの場合、日程が重なると開催できないためという理由である。費用は、月ごとなら1600円程度、年間約2万円、支払いはクレジットカードである。ホストを事務局が行う場合の負担や、セキュリティの問題、各区市の医師会のアカウントの利用を検討してはどうか等の意見が出された。各区市の支部やブロックにおいて、Zoom会議を行う意向、需要がどの程度あるかを調査し、再度審議することになった。継続審議

7. その他

（医業対策部）

日本産婦人科医会からの医療安全の手引きを、ブロック代表者会・会長協議会（書面開催）の資料に入れて欲しいと要望。承認

Ⅳ. 報告事項

1. 会計監査会（5/18）について（会計）
2. 交通費の支払い方法について（会計）
3. 第41回東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会並びに第397回東京産科婦人科学会例会について（学術）
4. 広報委員会（6/2）について（広報）
5. 令和2年度人工妊娠中絶統計、不妊手術届出件数報告について（母体保護）
6. 令和2年度プレグランディン膣坐剤の報告について
7. 偶発事例月間報告について（医療事故対策）
8. 関東ブロック会計監査会・幹事会の開催について（川嶋副会長）
会計監査会：5月8日（土）於AP市ヶ谷
幹事会：5月22日（水）通信にて開催
関東ブロック協議会：10月31日（日）横浜で開催予定
8. メディファックスに掲載された議連記事について（山田会長）
9. 令和3年度「性教育の授業」（中学校）への派遣について（学校保健）
10. 妊婦の入院時の新型コロナPCR検査に関して（社会保険）
11. その他
・今年度で退任される理事について
高木耕一郎 副会長、山田榮子 理事、吉野一枝 理事、宮崎亮一郎 理事
10. 6月開催委員会日程
1) 関ブロ各都県医会会長会（6月12日15:00～ 於：AP市ヶ谷）

記録：中林 豊
進行：松本 和紀
川嶋 一成
理事会議長：山田 正興
議事録署名人：中林 正雄
中井 章人

令和3年度第4回理事会議事録

開催日時：令和3年7月7日（水）

理事定数：22名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・中島・中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡各理事、中林・中井各監事

オブザーバー：倉島議長、松峯副議長

I. 会長挨拶

本会会長の第2期を迎えられた山田正興会長が今期も多岐にわたる課題に取り組む方針であることを述べられた。引き続き、山田正興会長が新任理事4人（岩田みさ子理事、坂田優理事、長岡美樹理事、前村俊満理事）を紹介され、それぞれの新任理事がご挨拶をされた。山田正興会長が令和3年度事業計画案（配布資料）に基づき、各部会の方針を示されるとともに、本会事務局として業

務委託をしている MA コンベンションと連携すること、今後の会計について模索していくことを述べられた。

II. 令和3年度第3回理事会議事録確認

III. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）
標記に関し資料を基に協議。入会者9名、退会者6名。承認
2. 理事会開催日（案）について（総務）
標記に関し協議。新型コロナウイルス感染症の感染状況により開催形式は検討されることが説明された。承認
3. 会費減額免除申請について（総務）
標記に関し協議。承認
4. 会費2年未納会員の資格喪失について（総務）
標記に関し協議。承認
5. 委員会委員について（総務）
標記に関し協議。承認
6. 東京都医師会への要望事項（山田会長）
標記に関し協議。承認
7. 令和3年度東京都医師会「グループ医学賞」候補者の募集について（総務）
標記に関し協議。候補者は今後検討することとなった。承認
8. 産科医療功労者厚生労働大臣表彰候補者の推薦について
標記に関し協議。承認
9. 関ブロ協議会・社保協議会要望事項並びに出席者について（総務）
標記に関し協議。承認
10. その他
特になし

IV. 報告事項

1. 令和3年度定時総会（6/19）について（総務）
2. 本会新役員就任の挨拶状発送について（総務）
3. ZOOMアカウントに関するアンケート結果について（総務）
4. 広報部報告
5. 人工妊娠中絶術式について（母体保護）
6. 母子保健部報告
 - 1) 令和3年度東京都新生児研修事業に係る契約の締結について
 - 2) 令和3年度東京都産科救急対応向上事業に係る契約の締結について
 - 3) 出生前検査に対する見解・支援体制について
 - 4) 令和3年度母体救命法普及事業コース開催支援について
7. 令和3年度児童虐待対応研修【基礎講座第1回】の開催について（医業対策）
8. 偶発事例月間報告（医療事故対策）
9. HPVワクチンについて（癌対策）
10. おぎゃー献金還付金について（献金）
11. 令和3年度関東ブロック役員の改選について（総務）

12. 日本産婦人科医会総会報告（山田会長）
13. 東京青年会議所中央区委員会への名義使用許可について（山田会長）
14. 東京都各科医会総会（7/5）について（山田会長）
15. 妊婦への新型コロナウイルスワクチンについて（山田会長）
16. 移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律の運用に関する指針（ガイドライン）の一部改正について（山田会長）
17. その他
特になし
18. 7月開催委員会日程
 - 1) 学校保健委員会（7月8日（木）19：30～ Zoom 会議）
 - 2) 広報委員会（7月9日（金）19：00～ Zoom 会議）
 - 3) 癌対策委員会（7月20日（火）18：30～ Zoom 会議）

記録：水主川 純
進行：松本 和紀
理事会議長：山田 正興
議事録署名人：中林 正雄
中井 章人

令和3年度臨時理事会議事録

開催日時：令和3年8月20日（金）

理事定数：18名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・
中島・中林豊・岩田・水主川・木口・長岡・川嶋各理事、中林・中井各監事

オブザーバー：倉島議長

I. 会長挨拶

会長から、COVID-19感染症蔓延に伴う東京都の周産期医療体制への危惧と、本会会員へのフィードバックと都への発信・要望を検討することが本会開催の目的であると述べられた。

II. 報告事項

各高次医療施設の現状について報告があった。

高次施設での感染症病棟はすでに満床である。東京都は、全体を把握しきれていないと思われ、情報も公開していない。

III. 協議事項

1. 東京都福祉保健局への要望

- 1) COVID-19感染妊産褥婦の全数把握と情報提供
- 2) 一般救急搬送と周産期搬送の連携強化
- 3) 妊産婦の特殊性を鑑みた自宅療養の指針の明示と環境整備
- 4) 妊婦及びその家族へのワクチンの優先接種

- 要望事項1)～4)の詳細について協議。承認
2. 会員への啓発
- 1) 東京都への要望をお伝えする
 - 2) 相談業務の強化
 - 3) 健康観察の重要性の再確認
 - 4) 本人及び家族へのワクチン接種の推奨
 - 5) 早め早めの対応
- 1)～4)の詳細について協議。会員に周知・啓発することとした。承認

記録：谷垣 伸治
理事会議長・進行：山田 正興
議事録署名人：中林 正雄
中井 章人

令和3年度第5回理事会議事録

開催日時：令和3年9月1日（水）

理事定数：21名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・中島・中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡・川嶋各理事、中林・中井各監事

オブザーバー：倉島議長、松峯副議長

I. 会長挨拶

8月20日の臨時理事会は多くの理事にご出席頂き、ありがとうございました。おかげさまで、8月26日に小池都知事に対面し、要望書を手渡すことができました。そのおかげで、各地区において妊婦さんに対する新型コロナワクチン接種が積極的に行われているようです。また、都内ブロックごとに周産期の連携を強化する動きも見られているようですので、あとでご報告よろしくお願い致します。本日は議題も多く、皆様方のご協力をよろしくお願い致します。

II. 1. 令和3年度第4回理事会議事録確認

2. 令和3年度臨時理事会議事録確認

III. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）

標記に関し資料を基に協議。入会者9名、退会者9名。承認

2. 東京都医師会への要望事項について（総務）

標記に関し資料を基に協議。承認

3. 第1回母体保護法指定医師研修会（10/17）開催形式等について（母体保護部）

承認

4. 令和3年度東京都医師会「グループ医学賞」候補者の募集について

標記に関し資料を基に協議。承認

5. 関東ブロック協議会・社保協議会（10/31）への質問事項について

標記に関し資料を基に協議。承認

6. その他
特になし

Ⅳ. 報告事項

1. 健康診査実施機関による受信者本人への結果の開示について（総務）
2. 会員通知「新型コロナ感染急拡大下で妊婦さんを守るために」について（総務）
3. 東京都への新型コロナ感染急拡大下での妊婦に対する緊急要望（8/26）について（総務）
4. 第2回ブロック代表者会・会長協議会（1/22）開催地の変更について（総務）
5. 敬人会（9/13）参加について（総務）
6. 東京思春期保健研究会への事業協力をお願い（総務）
7. 学術委員会からの報告（学術）
8. 広報委員会（7/9）報告（広報）
9. 母体保護委員会（7/28）報告（母体保護）
10. 東京都周産期医療協議会（8/26）について（母子保健）
11. 関東ブロック協議会・社保協議会（10/31）について（社会保険）
12. 医業対策委員会（7/30）報告（医業対策）
13. 令和3年度児童虐待対応研修【基礎講座第2回】開催のご案内について（医業対策）
14. 偶発事例月間報告（医療事故対策）
15. 症例評価結果報告書について（医療事故対策）
16. 癌対策委員会（7/20）報告（癌対策）
17. 学校保健委員会（7/8）報告（学校保健）
18. 令和3年度「学校専門医に関する講習会」実施予定について（学校保健）
19. 委員推薦について（総務）

東京都母子保健運営協議会委員：谷垣理事

東京都医師会感染症・予防接種委員会：松本副会長

東京都医師会精神保健医療福祉委員会：対馬副会長

東京都麻しん・風しん対策会議：松本副会長

東京都医師会医事紛争処理委員会（産婦人科）：岩田理事

20. その他

- 1) 母性健康管理研修会のご案内
- 2) 広報委員会よりTAOGニュース次号の記事について

21. 9月、10月委員会日程

- 1) 母体保護委員会 9月15日（水） 19：00～Zoom会議
- 2) 癌対策委員会 9月24日（金） 19：00～Zoom会議
- 3) 広報委員会 9月28日（火） 19：00～Zoom会議
- 4) 関東ブロック協議会・社保協議会
各都県医会会長会・社保委員会・母子保健委員会・協議会・社保協議会 10月31日（日）
- 5) 学校保健委員会 10月21日（木） 19：30～Zoom会議

記録：木口 一成

進行：対馬ルリ子

理事会議長：山田 正興

議事録署名人：中林 正雄

中井 章人

令和3年度第6回理事会議事録

開催日時：令和3年10月6日（水）

理事定数：19名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・中島・
中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡各理事、中林・中井各監事、
オブザーバー：倉島議長

I. 会長挨拶

9月23日に開催された日本産婦人科医会地域代表者会にて、本会が8月に東京都小池知事に提出した要望を妊産婦の新型コロナ感染対策として紹介した。

令和4年度の各部事業計画の策定をお願いします。

II. 令和3年度第5回理事会議事録確認

III. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）

標記に関し資料を基に協議。入会者6名、退会者4名。

承認

2. 10月以降の事務局体制について（総務）

事務局の主担当者が変更となった。

承認

3. 令和4年度 各部事業計画案について（総務）

標記に関し協議。

承認

4. 医会名簿について（総務）

1) 地区会長と代議員の個人情報に関する取扱いの確認について

標記に関し協議。

承認

2) 名簿の発刊形式について

標記に関し協議。再度検討することとした。

承認

5. 役員出張費について（会計）

標記に関し協議。

承認

6. 医会事業推進助成金の交付について（会計）

標記に関し協議。

承認

7. 第307回東京産婦人科医会臨床研究会の日程と開催形式について（学術）

標記に関し資料を基に協議。

承認

8. HTLV-1母子感染を防ぐために（母子保健）

標記に関し資料を基に協議。

承認

9. その他

特になし

IV. 報告事項

1. 産科医療功労者厚生労働大臣表彰について（総務）

2. 東京都医師会精神保健医療福祉委員推薦について（総務）

3. 今後の医会会議予定について（総務）

4. 令和3年度地域代表全国会議（9/23）について（総務・山田会長）

5. 令和4年度東京都予算に関する要望事項について（総務・山田会長）
6. 【日産婦】倫理委員会提案「重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する見解・細則」改定案へのパブリックコメント募集（10/15㍻）について（総務）
7. 令和3年度（4月～9月）会費納入状況について（会計）
8. 理事会・委員会の交通費等の支払（口座振込）について（会計）
9. 広報委員会（9/28）報告（広報）
10. 母体保護委員会（9/15）報告（母体保護）
11. 郵便法改正による郵便物の配達日数繰り下げの問題点と新生児マスキリーニングへの影響（母子保健）
12. 関東ブロック協議会・社保協議会（10/31）について（社会保険）
13. 性暴力・性犯罪等被害者支援のための医療従事者講習について、東京都との打ち合わせ（医業対策）
14. 産婦（産後）健診公費助成の要望について報告（医業対策）
15. 東京都児童虐待対応研修（基礎講座第2回）報告（医業対策）
16. 偶発事例月間報告（医療事故対策）
17. 妊婦死亡報告（医療事故対策）
18. 癌対策委員会書面開催（9/24）報告（癌対策）
19. グループ医学賞提出報告（学校保健）
20. 東京都各科医会協議会幹事会（10/4）について（各科医会）
21. ワクチンパレード（10/21）について（山田会長）
22. その他
 - 11月29日（月）東京産科婦人科学会と東京産婦人科医会との懇談会を開催予定。
 - 出席役員：会長、副会長、総務主担当理事の5名出席予定。
23. 10月開催委員会日程
 - 1) 関東ブロック（10月31日（日））
 - 各都県医会会長会・社保委員会・母子保健委員会・協議会・社保協議会
 - 2) 学校保健委員会（10月21日（木）19：30～）
 - 3) 母体保護委員会（10月 日（日付未定））

記録：堀 量博
 進行：松本 和紀
 理事会議長：山田 正興
 議事録署名人：中林 正雄
 中井 章人

令和3年度第7回理事会議事録

開催日時：令和3年11月10日（水）
 理事定数：21名（定足数11名以上）
 出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・
 中島・中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡・川嶋各理事、中林・中井各監事
 オブザーバー：倉島議長

I. 会長挨拶

11月に入りコロナも収束の様相ですが、気を緩めることなく第六波に備えていただきたいと思います。12月から医療従事者向けをはじめコロナワクチン接種3回目が始まります。引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

母体保護法指定医研修会では配信トラブルがあり大変申し訳ありませんでした。開催方法について学ぶことも多くありましたので今後に生かしていきたいと思います。

II. 令和3年度第6回理事会議事録確認

III. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）
標記に関し資料を基に協議。入会者6名、退会者3名。承認
2. 令和4年度行事予定案について（総務）
標記に関し協議。承認
3. 令和4年度各部事業計画案について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
4. 第143回関東連合産科婦人科学会共催シンポジウム演者推薦依頼について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
5. 東京産科婦人科学会と東京産婦人科医会との懇談会（11/29）について（総務）
標記に関し参加理事と議題について協議。承認
6. 令和3年度ブロック代表者会・会長協議会（1/22）について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
7. 各部委員会の開始時刻について（総務）
原則統一とした。Web開催は18：30～、現地開催は19：00～とする。承認
8. 医会会員データシステムについて（総務）
標記に関し資料を基に協議。継続審議
9. HTLV-1感染相談システムの構築について（母子保健）
標記に関し資料を基に協議。承認
10. 年末年始本会事務局休み中の緊急連絡先について（総務）
標記に関し協議。
令和3年12月28日（火）～令和4年1月4日（火）とする。承認
11. その他
特になし

IV. 報告事項

1. 東京都予防医学協会久布白兼行先生の理事長就任について（総務）
2. 2021年度関東ブロック産婦人科医会関東ブロック協議会・社保協議会（10/31）報告・各都県医会会長会（山田会長、谷垣理事、前村理事）
3. 令和3年 武見セミナー（12/13）について（総務）
4. 東京産科婦人科学会と東京産婦人科医会との懇談会について（総務）
5. 令和3年度上半期会計報告について（会計）
6. 令和3年度会費未納者（10月31日現在）について（会計）
7. 東京産科婦人科学会学術編成会議からの報告（学術）
8. 第307回臨床研究会について（学術）

9. 令和3年度母体保護法指定医師研修会（10/17）報告（母体保護）
10. 母体保護委員会（11/4）報告（母体保護）
11. 助産師による妊産婦自宅療養支援について（母子保健）
12. 医業対策委員会（11/5）報告（医業対策）
13. 日本医師会向けキャッシュレスサービスの案内について（医業対策）
14. 東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議（医業対策）
15. 全国医療安全担当者会議（11/3）について（医療事故）
16. 偶発事例月間報告（医療事故対策）
17. HPVワクチンの定期接種期間延長とその周知徹底について（癌対策）
18. 妊娠・産褥期及びプレコンセプションにおける乳がんへの対応に関する講習会について（癌対策）
19. 学校保健委員会（10/21）報告（学校保健）
20. その他

2022年1月9日 10:00～日本産科婦人科学会臨時総会開催

21. 11月開催委員会日程

- | | | |
|----------------------------|-----------------|-------------|
| 1) 関プロ幹事会 | 11月13日（土）15:00～ | Web開催 |
| 関プロ広報委員会 | 11月13日（土）15:00～ | Web開催 |
| 2) 関プロ各都県医会会長会 | 11月27日（土）15:00～ | Web開催 |
| 3) 献金委員会 | 11月12日（金）19:00～ | ルーテル市ヶ谷センター |
| 4) 勤務医委員会 | 11月15日（月）18:30～ | Zoom会議 |
| 5) 東京産科婦人科学会と東京産婦人科医会との懇談会 | 11月29日（月）18:30～ | Zoom会議 |

記録：長岡 美樹

進行：松本 和紀

理事会議長：山田 正興

議事録署名人：中林 正雄

中井 章人

令和3年度第8回理事会議事録

開催日時：令和3年12月1日（水）

理事定数：19名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・中島・中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡各理事、中林・中井各監事、オブザーバー：倉島議長

I. 会長挨拶

久々の現地開催となりました。コロナの新しい変異株が報告され、心配材料ではありますが、状況を注視していきたいと思います。先日の日経新聞に、生産人口の減少が進んでおりIT化がますます重要となる旨の記事がありました。出生数も減少しており、我々の分野でのさらなる努力が必要になると思います。今後の理事会は感染状況を見ながら、webカリアルを判断していきたいと思っています。今日は令和4年度の事業計画・予算案を中心によりしくお願いします。

Ⅱ. 令和3年度第7回理事会議事録確認

Ⅲ. 協議事項

1. 会員入退会について（総務）
標記に関し資料を基に協議。入会者4名、退会者2名。承認
2. 日産婦医会名誉会員・特別会員候補者の推薦について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
3. 令和3年度 第2回ブロック代表者会・会長協議会について（総務）
日時：令和4年1月22日（土）16時～ 於：AP市ヶ谷
標記に関し資料を基に協議。承認
4. 令和4年度行事予定案について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
5. 令和4年度各部事業計画案と事業予算額案について（総務・会計）
標記に関し資料を基に協議。承認
6. 令和4年度定時総会（6月）について（総務）
標記に関し資料を基に協議。承認
7. 東京産婦人科医会ホームページのリニューアルについて（広報）
8. 令和3年度産科救急対応向上事業と新生児救命事業について（母子保健）
標記に関し資料を基に協議。承認
9. 出産保険（太陽生命㈱）について（山田会長）
標記に関し資料を基に協議。TAOGニュースに同梱し、チラシを送付。承認
10. 母子保健部（谷垣理事）
新生児聴覚スクリーニング協議会へ谷垣理事を推薦。承認

Ⅳ. 報告事項

【総務】

1. 東京産科婦人科学会と東京産婦人科医会との懇談会（11/29）について

【医業対策】

2. アンケートについて（①SNS、②キャッシュレス）
3. 性犯罪性被害者支援医療従事者むけ研修のYouTube配信について

【医療事故】

4. 偶発事例月間報告

【病院】

5. 勤務医委員会（11/15）報告
6. 産婦人科診療に対する実態について

【癌対策】

7. HPVワクチンに関する最新情報について

【献金】

8. 献金部報告

【学校保健】

9. 学校専門医に関する講習会（11/28）報告

【その他】

10. 第142回関東連合産科婦人科学会学術集会（11/20-21）について
11. 関東ブロック各都県医会会長会（11/27）について

12. 令和3年度補正予算案における不妊治療の保険適用移行期の課題に対する予算計上について
13. 今後の母体保護指定医研修会について
14. 12月開催委員会日程
関ブロ広報委員会 12月11日（土）16：00～

記録：坂田 優
進行：対馬ルリ子
理事会議長：山田 正興
議事録署名人：中林 正雄
中井 章人

令和3年度第9回理事会議事録

開催日時：令和3年1月12日（水）

理事定数：20名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・
中島・中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡・川嶋各理事、中林監事
オブザーバー：倉島議長

I. 会長挨拶

山田会長より、長岡先生が性教育指導活動を行ってきたその功績に対して東京都医師会のグループ医学賞を受賞したことが報告された。

II. 令和3年度第8回理事会議事録確認

III. 協議事項

【総務】

1. 会員入退会について（総務）

標記に関し資料を基に協議。入会者4名、退会者10名。承認

2. 令和3年度第2回ブロック代表者会・会長協議会について

標記に関し資料を基に協議。承認

【総務・会計】

3. 令和4年度各部事業計画案と事業予算案について

標記に関し資料を基に協議。承認

IV. 報告事項

【総務】

1. 会費減免者の申請について（2022年度会費減免者一覧）

2. 他会への委員推薦について

災害時小児周産期医療体制推進部会委員：松本 和紀 副会長 承認

東京都周産期医療協議会委員：荘 隆一郎 副会長

周産期搬送体制検証部会委員：谷垣 伸治 理事

3. 母子保健対策関係の令和4年度予算案について

【会計】

4. 会費の納入状況について

【学術】

5. 第307回臨床研究会について

【広報】

6. 広報委員会（1/7）について

【母体保護】

7. 母体保護委員会（12/14）報告

8. 令和3年度母体保護法指定医師指定医師研修会（2/13）について

9. 令和4年度母体保護法指定医師指定医師研修会について

【医業対策】

10. 医業対策委員会（1/5）報告

11. 産婦健診公費助成要望書について

【医療事故】

12. 第11回医療事故調査制度研修会（12/16）について

13. 偶発事例月間報告

【癌対策】

14. 子宮頸がん検診について

15. 第31回日本乳癌検診学会学術総会について

【学校保健】

16. 養護教諭向け講演会（12/15）実施

17. 東京都医師会グループ医学賞受賞

【各科医会】

18. 東京都各科医会協議会令和3年度第3回幹事会開催について

【その他】

19. 1) 医会本部からの「第6波に備えて」について

2) TAOGニュースへの掲載（医業対策部アンケート結果）について

3) 杉並中野新宿区3区合同の産婦人科学術講演会の案内

4) おぎゃー献金推進イベント（講演・写真展示）について

5) 令和4年度の予算（会員データベースのIT化費用）について

6) HTLV-1母子感染対策事業について

20. 1月開催委員会日程

1) 予算編成会議（1月25日 18:30～Zoom会議）

2) 第3回学校保健委員会（1月27日 19:30～Zoom会議）

記録：岩田みさ子

進行：莊 隆一郎

理事会議長：山田 正興

議事録署名人：中林 正雄

中井 章人

令和3年度第10回理事会議事録

開催日時：令和4年2月2日（水）

理事定数：21名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・
中島・中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡・川嶋各理事、中林・中井各監事
オブザーバー：倉島議長

I. 会長挨拶

コロナ感染症拡大防止のため、リアル開催からZOOM開催となった。

挨拶の最後に、事務局の新任大平彩美さんのご紹介があった。

II. 令和3年度第9回理事会議事録確認

III. 協議事項

【総務】

1. 会員入退会について（総務）

標記に関し資料を基に協議。入会者5名、退会者3名。

承認

2. 令和4年度事業計画（案）について

標記に関し資料を基に協議。

承認

【会計】

3. 令和4年度収支予算書（案）について

標記に関し資料を基に協議。

承認

4. 受取負担金について

標記に関し資料を基に協議。

承認

5. その他

特になし

IV. 報告事項

【総務】

1. 令和3年度新生児聴覚検査連絡協議会（1/18）報告

2. 第2回ブロック代表者会及び会長協議会（1/22）について

3. 東京産業保健総合支援センターからの依頼（東京産業保健相談員）

4. 東京都医師会感染予防対策委員会 北村委員からの報告について

5. 東京都地域医療対策協議会専門委員の推薦について

6. 難聴児の早期支援及び関係機関連携強化検討会委員について

【会計】

7. 令和3年度予算編成会議（1/25）報告

【学術】

8. 第307回東京産婦人科医会臨床研究会の開催案内について

9. 女性医療フォーラム（共催：バイエル薬品（株））について

【母体保護】

10. 令和3年度第2回母体保護法指定医師指定医師研修会の進捗状況報告

【社会保険】

11. 社保国保審査委員協議会について（3月末日 現地開催予定）

【医業対策】

12. 「令和3年度性犯罪性被害者支援医療従事者研修」の参加人数報告
191名中、産婦人科は179名の参加。

【医療事故】

13. 医療事故調査制度研修会の開催について
14. 偶発事例月間報告
15. 妊産婦死亡報告

【癌対策】

16. 被爆者などにおける健康診断実施医療機関への周知について

【献金】

17. 第7回おぎゃー献金推進イベント（1/22）報告

【学校保健】

18. 学校保健委員会（1/27）報告

【各科医会】

19. 「新規開業医のための保険診療の要点」作成のための協力依頼について

【その他】

20. 1) 周産期搬送協議会の報告について
2) 1月26日 杉並・中野・新宿3区合同学術講演会の報告について
3) 2月7日（月）日本産婦人科医会主催「子宮頸がん予防WEBカンファレンス
4) HPVワクチン積極的接種勧奨再開後、私たちがすべきこと」について
21. 2月開催委員会日程
1) 関東ブロック幹事会・社保委員会 2月5日（土）15:00～ Web開催
2) 各科医会協議会第3回幹事会 2月7日（月）19:30～20:50 Zoom開催

記録：里見 操緒

進行：対馬ルリ子

理事会議長：山田 正興

議事録署名人：中林 正雄

中井 章人

令和3年度第11回理事会議事録

開催日時：令和3年3月2日（水）

理事定数：21名（定足数11名以上）

出席者：山田会長、松本・対馬・荘各副会長、中林稔・坂田・武知・里見・中野・谷垣・前村・
中島・中林豊・岩田・水主川・木口・堀・長岡・川嶋各理事、中林・中井各監事
オブザーバー：倉島議長、松峯副議長

I. 会長挨拶

3月に入り春めいた陽気になっています。本日はひな祭りイブです。女性のためのお祭りにちな

み、我々も頑張っていきましょう。

本日の会議の開催にあたり、以下の3点を報告します。

1) 産婦健康診査事業 広域連携

各市町村への広がりが必要でも十分でないため、総務省が厚労省に対して改善を促し、東京都が主体的に広域的な事業支援を行っている。良い方向に向かっていると思われる。

2) 東京都 臨時医療施設

オミクロン株に対応した妊婦支援のための臨時療養施設で、対象妊婦は「入院加療以前」。

自宅療養に加え、オプションとして公社病院やホテルでの療養が可能となる。ホテル療養では専任看護師が配置され、産婦人科医師の出張あるいはリモートアドバイスが受けられる。重症化に備えバックアップのための後方病院も検討されている。

3) 東京都 ユースヘルスケア推進事業

令和3年2月に閣議決定された成育医療等基本方針により、男女を問わず、相談支援や健診などを通じて将来の妊娠のための健康に関する情報提供を整備することとなった。プレコンセプションケアを通じて妊娠・出産に関し正しい知識を提供することとする。将来的には出生数の増加につなげていきたい。

II. 令和3年度第10回理事会議事録確認

III. 協議事項

【総務】

1. 会員入退会について（総務）

標記に関し資料を基に協議。入会者21名、退会者6名。

承認

2. 東京都医師会への要望について

標記に関し資料を基に協議。

承認

【母体保護】

3. 令和4年度母体保護指定医師研修会開催形式について

標記に関し資料を基に協議。

承認

IV. 報告事項

【総務】

1. 各科医会協議会令和3年度第3回幹事会（2/7）開催報告

2. 令和3年度第1回災害時小児周産期医療体制推進部会開催報告

3. 令和3年度事業報告について

4. 敬人会勉強会（3/14）について

5. 他会委員の推薦等について

・産業保健相談員（産業医学）就任依頼 山田会長

・児童生徒性暴力等の防止等に関する法律の対応に係る専門家（医療）

推薦依頼 対馬ルリ子副会長、丸橋和子学校保健委員

【会計】

6. 会費の納入状況について

7. 会計監査会日程について

【学術】

8. 第307回臨床研究会進捗状況報告

9. 女性医療フォーラム（2/26）共催報告

【母体保護】

10. 令和3年度第2回母体保護法指定医師研修会（2/13）開催報告

【母子保健】

11. 東京都産科救急対応向上事業講習会開催報告
12. 母性健康管理・助成金特別支援相談窓口の期限延長について

【社会保険】

13. 保険診療の改正について

【医業対策】

14. 東京都の産後健診に関する勉強会（2/7）報告

【医療事故】

15. 偶発事例月間報告

【癌対策】

16. HPV ワクチンに関する厚生労働省通知について

【献金】

17. 「おぎゃー献金合唱団 チャリティーコンサート」開催の後援依頼について

【学校保健】

18. 令和4年度 生涯の健康に関する理解促進事業打ち合わせ
19. 令和3年度 都立学校における専門医派遣事業連絡会（産婦人科）

【その他】

20. 1) 関ブロ会報との同梱による TAOG ニュース 1 月号の発送遅延について
2) HP リニューアルについて
3) 会員データベースのリニューアルについて
4) 堀理事新装開院について
21. 3月開催委員会日程
1) 医療事故対策委員会 3月10日（木） 18：30～ Zoom 会議
2) 広報委員会 3月18日（金） 18：30～ Zoom 会議

記録：武知 公博

進行：荘 隆一郎

理事会議長：山田 正興

議事録署名人：中林 正雄

中井 章人

3) ブロック代表者会・会長協議会

令和3年度第1回ブロック代表者会及び会長協議会

開催日時：令和3年6月19日（土）15時～

於：書面開催

I. 報告事項

- 1) 令和3年度事業予定
- 2) 各地区会長（支部長）の人事変更について
- 3) 令和2年度事業報告について
- 4) 令和2年度人工妊娠中絶統計・不妊手術統計の報告
- 5) 令和2年度プレグランディン膣坐薬の報告
- 6) 母体保護法に係る疑義について
- 7) 令和2年度臨床研究会報告
- 8) COVID-19感染拡大による診療実態調査報告
- 9) 会員医療機関におけるキャッシュレス決済の現状と課題
- 10) おぎゃー献金について 堀理事
- 11) その他
特になし

令和3年度第2回ブロック代表者会及び会長協議会

開催日時：令和4年1月22日（土）

於：書面開催

I. 各部報告事項

1. 総務部

1) 庶務報告

（会員数、令和3年度入会正・準会員・減免会員・物故会員報告、令和3年度事業報告、令和4年度行事予定）

2) 東京都への要望書提出報告

2. 母体保護部

1) 母体保護法指定医師研修会報告

2) 中絶報告書の提出日について（郵政法変更により毎月7日に繰上げ）

3) 令和3年度プレグランディン膣坐剤報告について

3. 母子保健部

1) HTLV-1妊婦の取り組み

2) 母性健康管理指導事項連絡カードの改正について

4. 社会保険部：不妊治療の保険適用への移行支援について

5. 医業対策部

1) 性犯罪・暴力被害者支援のための医療従事者対象研修会について

- 2) 産婦（産後）健診の導入公費助成要望書について
- 6. 学校保健部：都内中学校における性教育指導について
- 7. 癌対策部
 - 1) 各地区の子宮がん・乳がん検診の実施状況調査報告について
 - 2) HPV ワクチン接種推奨について
- 8. その他
 - 1) 妊婦に対する新型コロナウイルスワクチン3回目接種の優先接種についての要望
 - 2) 出産育児一時金等の支給申請及び支払い方法について

II. 部よりの要望・連絡事項（事前に提出依頼）

- ・ HPV ワクチンについて（北区産婦人科医会 須賀田 元彦 会長）
シルガード9の導入にむけて東京産婦人科医会として行政への勧奨をどう取り組むか？（周知の方法など）

III. おぎゃー献金推進イベント

※現地開催は中止

V. 各部事業報告

定款第4条

1) 女性の保険・医療・福祉に関する事業

主に医業対策部、医療事故対策部、病院部、癌対策部が行った

2) 母子保健に関する事業

主に母子保健部、学校保健部が行った

3) 母体保護法の適正なる運営と実施・啓発に関する事業

主に母体保護部が行った

4) 会員の学術研修に関する事業

主に学術部が行った

5) 会員の品位向上と福祉に関する事業

主に献金部が行った

6) その他本会の目的達成に関する事業

主に総務部、会計部、広報部、社会保険部が行った

Ⅵ. 各部活動報告

《総務部》

担当理事 中林 稔

総務部

担当副会長 松本 和紀

担当理事 中林 稔

副担当理事 中林 豊

令和3年度事業計画

1. 日本産婦人科医会・日本産科婦人科学会との協調と連携
2. 日本医師会・東京都医師会との関連業務の推進と協力
3. 本会各委員会の円滑な活動への支援
4. 本会各地区の活動への支援
5. 関連諸団体との連携
6. 令和3年度 本会理事の選挙委員会設立
7. 新年度役員名簿作成・挨拶状発送

令和3年度の東京産婦人科医会は、前期に引き続き山田正興会長をはじめ、選挙で選ばれた約20名の新旧役員により新たに発足した。また今年度より、MA コンベンションと提携が始まった。

事業計画通り日本産婦人科医会・日本産科婦人科学会との協調と連携、日本医師会・東京都医師会との関係業務の推進と協力を行った。

今年度も東京都福祉保健局ならびに日本産婦人科医会等から届いた通達文は、各地区医会へ通知・案内をし、詳細はホームページにも掲載をした。また、東京都医師会に対して要望書を提出した。

関係諸団体の関東ブロック産婦人科医会に関して、令和3年10月31日に神奈川県主催で、横浜のローズホテルにて協議会・社保協議会が開催された。東京都各科医会協議会では幹事会、総会を主にWeb開催にて行った。

令和3年6月の定時総会は現地開催で行われたが、令和4年1月の第2回ブロック代表者会は新型コロナウイルス感染拡大のため書面開催にて行われた。また、新たな試みとして、母体保護法指定医師研修会がWebまたはハイブリッド形式で行われた。今後は感染の状況を見ながら各研修会や研究会の開催様式を検討していく必要があると思われる。

令和3年度 事業報告

1. 定時総会 令和3年 6.19 於 AP市ヶ谷
2. 第1回ブロック代表者会・第1回会長協議会・懇談会
令和3年 6.19 於 書面開催
第2回ブロック代表者会・第2回会長協議会・懇談会
令和4年 1.22 於 AP市ヶ谷
3. 理事会 11回
令和3年 4.7 5.12 6.2 7.7 9.1 10.6 11.10 12.1
令和4年 1.12 2.2 3.2
4. 母体保護法指定医師研修会 2回
令和3年 10.17 於 一橋講堂 / Web開催
令和4年 2.13 Web開催（ライブ配信）
5. 指定医交付会（都医） 6回
令和3年 4.7 6.2 8.4 10.6 12.1
令和4年 3.2（※オミクロン株の影響により2月から3月に延期）
6. 臨床研究会 1回
※ハイブリッド開催 令和4年 3.6 於 新宿ファーストウェスト
3.16～22 Web開催（オンデマンド配信）
7. 東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会
※ハイブリッド開催 2回
令和3年 5.15 於 JA共済ビルカンファレンスホール
5.21～27 Web開催
12.3～9 Web開催
8. 社保・国保審査委員協議会 令和4年 2月（※中止）
9. おぎゃー献金推進イベント 令和4年 1.22 於 AP市ヶ谷（※開催中止）
10. 部会・委員会
 - ① 総務 1回
・選挙管理委員会 令和3年 5.10
 - ② 会計 2回
令和3年 5.18
令和4年 1.25
 - ③ 学術 2回
令和3年 4.15 Web開催
令和4年 3.28 Web開催
 - ④ 広報 6回
令和3年 4.16 5.28 7.9 9.28 Web開催
令和4年 1.7 3.18 Web開催
 - ⑤ 母体保護 5回
令和3年 7.28 9.15 11.4 12.14 Web開催
令和4年 3.23 Web開催

⑥ 母子保健	8回	
(産科救急対応向上事業による講習会)	令和 4年 2.27 (午前・午後)	於 中林病院助産師学院
	2.27 (午前・午後)	於 慶應義塾大学
	3.13 (午前・午後)	於 杏林大学医学部附属病院会議室
(NCPR 講習会)	令和 4年 3.5	於 杏林大学医学部附属病院
	3.12	於 母子愛育会総合母子保健センター愛育病院
⑦ 社会保険	1回	
	令和 4年 3月	(※中止)
⑧ 医業対策	3回	
	令和 3年 7.30 11.5	Web 開催
	令和 4年 1.5	Web 開催
⑨ 医療事故対策	1回	
	令和 4年 3.10	Web 開催
⑩ 病院	1回	
	令和 3年 11.15	Web 開催
⑪ 癌対策	2回	
	令和 3年 7.20 9.7	Web 開催 (9月は書面開催)
⑫ 献金	1回	
	令和 3年 11.12	於 ルーテル市ヶ谷
11. ⑬ 学校保健	3回	
	令和 3年 7.8 10.21	Web 開催
	令和 4年 1.27	Web 開催
12. TAOG ニュース	4回	
4月 7・8月 10月 1月		
13. 東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同懇談会	令和 3年 11.29	Web 開催
提携諸団体との事業		
① 関東ブロック産婦人科医会協議会・社保協議会	令和 3年 10.31	於 如水会館→開催中止
		於 ローズホテル横浜
関東ブロック産婦人科医会・関東連合産科婦人科学会共催シンポジウム	令和 3年 7.2 ～ 8	Web 開催
② 東京思春期保健研究会		
総会・第59回研究会	令和 3年 6月、11月	於 開催中止
③ 東京都各科医会協議会		
幹事会	3回	
	令和 3年 4.5	Web 開催
	令和 3年 10.4	Web 開催
	令和 4年 2.7	於 東京都医師会 5階会議室
総会	令和 3年 7.5	於 東京都医師会 5階会議室
忘年会	令和 3年 12.6	於 開催中止
④ 東京都小児科医会	1回	
HTLV-1に関する合同協議会	令和 3年 10.26	Web 開催

令和3年度 会務報告

1. 会員数	1,269名
正会員	1,126名
賛助会員	1名
準会員	2名
減免会員	88名
免除会員	52名 2022.3.31現在

令和3年度入会正・準会員 (2021.4.1 ~ 2022.3.31)

(千代田区) 黒田 恵司	(品川区) 吉岡 知巳
(千代田区) 堤 亮	(大森) 梅津 信子
(千代田区) 許山 浩司	(大森) 小林 浩和
(中央区) カロンゴス ジャンニーナ	(田園調布) 松浦 玲子
(中央区) 佐藤 亜美	(蒲田) 齋藤 朋子
(港区) 今永 兼良	(北区) 深沢 瞳子
(港区) 篠倉 千早	(北区) 武谷 千晶
(港区) 中山 敏男	(北区) 宮川 理華子
(浅草) 直林 奈月	(豊島区) 加村 和雄
(荒川区) 黒木 睦実	(板橋区) 樋口 明日香
(荒川区) 野島 美知夫	(練馬区) 岡垣 竜吾
(足立区) 安藤 昌守	(練馬区) 竹本 崇史
(葛飾区) 深見 武彦	(練馬区) 森田 政義
(葛飾区) 宮崎 美和	(北多摩) 仙波 宏史
(墨田区) 酒井 華乃	(東久留米市) 伊藤 瑞葉
(江東区) 佐藤 真一	(東久留米市) 紫藤 史
(江東区) 土肥 聡	(東久留米市) 袖本 武男
(江東区) 村頭 温	(東久留米市) 高橋 肇
(江戸川区) 渡辺 亜紀	(南多摩) 西島 義博
(新宿区) 石川 久直	(南多摩) 早川 繁
(新宿区) 戸田 里実	(町田市) 中崎 裕夏
(新宿区) 渡邊 弓花	(慶応大) 浜谷 敏生
(新宿区) 佐野 靖子	(慈恵医大) 井上 桃子
(新宿区) 石山 俊輔	(慈恵医大) 平田 幸広
(新宿区) 片岡 尚代	(帝京大) 長阪 一憲
(新宿区) 塩原 圭介	(医科歯科大) 関口 将軌
(新宿区) 壽圓 裕康	(東京医大) 小野 政徳
(新宿区) 中川 浩次	(東女医大) 鈴木 優人
(新宿区) 名倉 優子	(東女医大) 堀部 悠
(新宿区) 堀川 隆	(東大) 佐山 晴亮
(杉並区) 古川 誠志	(東大) 利光 正岳
(目黒区) 宮岸 玲子	(東大) 藤井 達也
(世田谷区) 有川 美樹子	(東邦大) 小宮山 慎一
(世田谷区) 齋木 美恵	(東邦大) 鷹野 真由実
(玉川) 仁平 光彦	(東邦大) 林 裕子
(玉川) 久松 和寛	(日医大) 豊島 将文
(品川区) 安藤 有里子	

以上73名

令和3年度減免会員

(港区) 美馬博史
(江東区) 王欣輝
(玉川) 中野明

(北区) 木暮哲久
(豊島区) 加塚祐康
(豊島区) 進士雄二

以上6名

2. 物故会員（敬称略）（2021.4.1～2022.3.31）

(神田) 麻生武志
(足立区) 米山雅雄
(江戸川区) 三枝義人
(江戸川区) 宇田川芳男
(杉並区) 幾石泰雄

(杉並区) 金城洋
(杉並区) 黒土稔
(玉川) 木下佐
(南多摩) 北井啓勝

以上9名

《会計部》

担当理事 坂田 優

会計部

担当副会長 松本 和紀

担当理事 坂田 優

副担当理事 里見 操緒

事業計画

1. 予算書の作成・決算書の作成
2. 事業計画に則った適切な財産の運用と可能な限りの経費の節約
3. 法人会計基準（平成20年度会計基準）に準拠した会計処理を行う
4. 事務局の委託のための経費について検討する

上記事業を円滑に運営するため、下記の会を開催した

1. 令和2年度会計監査会（令和3年5月18日）
出席者（7名）：中林正雄監事、中井章人監事、
山田正興会長、松本和紀副会長、
中林稔理事、山田榮子理事、
梶原会計会計士

2. 令和4年度予算編成会議（令和4年1月25日）
ハイブリッド開催

出席者（6名）：山田正興会長、松本和紀副会長、
対馬ルリ子副会長、
莊隆一郎副会長、坂田優理事、
里見操緒理事

定款第51条に基づき、令和3年5月18日に会計監査会を開催し、監事2名により令和2年度決算報告を監査。令和3年6月2日の理事会に報告・承認を受けた。

貸借対照表、損益計算書（正味財産増減計算書）、及びその付属明細書を示した。

公益目的事業会計収支は8,938,241円の赤字、収益事業等会計収支は、222,102円の黒字、法人会計収支は13,117,494円の黒字で、正味財産期末残高48,741,690円であった。

定款第50条に基づき、令和4年度の予算書を作成した。

令和4年1月25日に予算編成会議を開催。経常収益計45,846,000円、経常費用計45,779,370円の予算を編成し、令和4年2月2日の理事会にて承認を受けた。

貸 借 対 照 表

令和4年 3月31日現在

一般社団法人 東京産婦人科医会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金預金	72,620,030	51,772,559	20,847,471
未収会費	160,000	180,000	△ 20,000
未収金	3,488,357	3,404,090	84,267
前払費用	0	49,665	△ 49,665
仮払金	46,000	0	46,000
流動資産合計	76,314,387	55,406,314	20,908,073
2. 固 定 資 産			
什器備品	104,277	173,794	△ 69,517
電話加入権	30,000	30,000	0
その他固定資産合計	134,277	203,794	△ 69,517
固定資産合計	134,277	203,794	△ 69,517
資 産 合 計	76,448,664	55,610,108	20,838,556
II 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未払金	487,000	1,757,886	△ 1,270,886
未払費用	1,844,225	2,078,966	△ 234,741
前受金	520,000	900,000	△ 380,000
前受会費	1,128,000	60,000	1,068,000
預り金	1,604,735	1,160,766	443,969
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	444,100	840,800	△ 396,700
流動負債合計	6,098,060	6,868,418	△ 770,358
負 債 合 計	6,098,060	6,868,418	△ 770,358
III 正 味 財 産 の 部			
1. 指定正味財産	0	0	0
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	70,350,604	48,741,690	21,608,914
正 味 財 産 合 計	70,350,604	48,741,690	21,608,914
負債及び正味財産合計	76,448,664	55,610,108	20,838,556

正味財産増減計算書内訳表

一般社団法人 東京産婦人科医会

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計			収益事業等会計	法人会計	合計	前年度	増減
	一般事業	おぎや一献金	公益小計	共益事業	管理費			
I 一般正味財産増減の部								
1.経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	0	4,540,000	18,820,000	23,360,000	23,020,000	340,000
受取入会金	0	0	0	0	660,000	660,000	540,000	120,000
受取会費	0	0	0	4,540,000	18,160,000	22,700,000	22,480,000	220,000
受取負担金	6,589,000	0	6,589,000	0	0	6,589,000	7,020,000	△ 431,000
受取負担金(東京都予防医学協会)	6,589,000	0	6,589,000	0	0	6,589,000	7,020,000	△ 431,000
事業収益	7,688,052		7,688,052	0	0	7,688,052	6,801,194	886,858
指定医師研修会事業	1,502,642	0	1,502,642	0	0	1,502,642	2,892,144	△ 1,389,502
母体救命・NCPR研修会事業	6,185,410	0	6,185,410	0	0	6,185,410	3,909,050	2,276,360
受取補助金等	9,892,000	909,134	10,801,134	0	1,140,900	11,942,034	4,383,534	7,558,500
東京都医師会補助金	2,100,000	0	2,100,000	0	0	2,100,000	1,100,000	1,000,000
日本産婦人科医会助成金	7,792,000	0	7,792,000	0	1,140,900	8,932,900	1,220,480	7,712,420
おぎや一献金補助金	0	909,134	909,134	0	0	909,134	663,054	246,080
その他補助金	0	0	0	0	0	0	1,400,000	△ 1,400,000
雑収益	1,973,000	0	1,973,000	2,310,000	767	4,283,767	5,112,400	△ 828,633
受取利息	0	0	0	0	767	767	1,331	△ 564
広告収入	0	0	0	2,310,000	0	2,310,000	2,880,000	△ 570,000
その他収入	1,973,000	0	1,973,000	0	0	1,973,000	2,231,069	△ 258,069
経常収益計	26,142,052	909,134	27,051,186	6,850,000	19,961,667	53,862,853	46,337,128	7,525,725
(2) 経常費用								
事業費	18,033,233	567,378	18,600,611	2,777,569		21,378,180	24,978,256	△ 3,600,076
給料手当	0	0	0	0		0	9,969,189	△ 9,969,189
退職給付費用	0	0	0	0		0	722,620	△ 722,620
法定福利費	7,896	0	7,896	0		7,896	1,567,019	△ 1,559,123
福利厚生費	0	0	0	0		0	636,328	△ 636,328
総務部委員会費	471,799	0	471,799	0		471,799	750,347	△ 278,548
会計部委員会費	54,815	0	54,815	0		54,815	129,036	△ 74,221
学術部委員会費	2,567,920	0	2,567,920	0		2,567,920	2,239,040	328,880
広報部委員会費	0	0	0	2,777,569		2,777,569	1,574,346	1,203,223
母体保護部委員会費	2,087,005	0	2,087,005	0		2,087,005	2,616,062	△ 529,057
母子保健部委員会費	4,056,968	0	4,056,968	0		4,056,968	3,779,662	277,306
社会保険部委員会費	0	0	0	0		0	54,000	△ 54,000
医業対策部委員会費	268,360	0	268,360	0		268,360	145,412	122,948
医療事故対策部委員会費	24,000	0	24,000	0		24,000	30,133	△ 6,133
病院部委員会費	33,000	0	33,000	0		33,000	45,000	△ 12,000
癌対策部委員会費	21,000	0	21,000	0		21,000	114,398	△ 93,398
献金部委員会費	0	567,378	567,378	0		567,378	482,664	84,714
学校保健部委員会費	916,470	0	916,470	0		916,470	123,000	793,470
委託費	7,524,000	0	7,524,000	0		7,524,000	0	7,524,000
管理費					10,805,759	10,805,759	16,957,517	△ 6,151,768
総会・臨時総会・懇親会費					514,196	514,196	474,018	40,178
理事会会議費					1,205,860	1,205,860	879,185	326,675
ブロック代表者会・会長会費					245,095	245,095	46,200	198,895
選挙管理関連費					94,721	94,721	0	94,721
関東ブロック等関係諸団体会議費					137,000	137,000	123,000	14,000
旅費交通費					16,760	16,760	86,730	△ 69,970
通信運搬費					451,676	451,676	862,444	△ 410,768
減価償却費					69,517	69,517	115,862	△ 46,345
消耗品費					1,482,311	1,482,311	1,663,210	△ 180,899
印刷製本費					499,902	499,902	1,790,244	△ 1,290,342
貸借料(倉庫使用料)					35,937	35,937	4,833,840	△ 4,797,903
修繕費					0	0	1,188,000	△ 1,188,000
諸謝金					548,735	548,735	726,000	△ 177,265
支払手数料					111,188	111,188	62,920	48,268
渉外費					135,970	135,970	141,475	△ 5,505

科 目	公益目的事業会計			収益事業等会計	法人会計	合計	前年度	増減
	一般事業	おぎや一献金	公益小計	共益事業	管理費			
慶弔費					169,665	169,665	85,000	84,665
諸会費					1,772,800	1,772,800	1,683,500	89,300
租税公課					876,585	876,585	872,300	4,285
委託費					2,376,000	2,376,000	0	2,376,000
支払助成金					25,200	25,200	25,600	△ 400
雑費					36,641	36,641	1,297,989	△ 1,261,348
経常費用計	18,033,233	567,378	18,600,611	2,777,569	10,805,759	32,183,939	41,935,773	△ 9,751,834
評価損益等調整前当期経常増減額	8,108,819	341,756	8,450,575	4,072,431	9,155,908	21,678,914	4,401,355	17,277,559
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	8,108,819	341,756	8,450,575	4,072,431	9,155,908	21,678,914	4,401,355	17,277,559
2.経常外増減の部								
(1)経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	8,108,819	341,756	8,450,575	4,072,431	9,155,908	21,678,914	4,401,355	17,277,559
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	70,000	0	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	8,108,819	341,756	8,450,575	4,002,431	9,155,908	21,608,914	4,331,355	17,277,559
一般正味財産期首残高	△ 46,752,548	1,031,323	△ 45,721,225	5,799,156	88,663,759	48,741,690	44,410,335	4,331,355
一般正味財産期末残高	△ 38,643,729	1,373,079	△ 37,270,650	9,801,587	97,819,667	70,350,604	48,741,690	21,608,914
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 38,643,729	1,373,079	△ 37,270,650	9,801,587	97,819,667	70,350,604	48,741,690	21,608,914

附属明細書

- 1.基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記に記載のとおり。
- 2.引当金の明細
該当なし。

《学術部》

担当理事 武知 公博

学術部

担当副会長	松本 和紀
担当理事	武知 公博
担当副理事	谷垣 伸治
学術研修委員	
委員長	塩津 英美
委員	吉田 正平
委員	渡邊 昇一
委員	鈴木 國興
委員	冬城 高久
委員	佐藤奈加子
委員	藤川 浩
委員	平尾 薫丸
委員	関沢 明彦
委員	綾部 琢哉
委員	熊澤 恵一

令和3年度の学術部の定例事業として、第307回臨床研究会、第41回・第42回合同研修会を開催しました。

臨床研究会は従来、年2回の開催でしたが、本年度は1回の開催となりました。コロナ禍により今までのような会場での開催が困難となったため、前年度は本会として初めてのWeb開催を行いました。予想を大きく上回る多数の先生方にご視聴いただいたのですが、生の臨場感に欠けることや質疑応答がやや困難であること、講師の先生からも参加者の反応を確かめながらのプレゼンテーションができない等々、会場開催を望む声も決して少なくはありませんでした。そこで本年度は参加人数を制限した上で、の会場開催とその後のオンデマンド配信という形に致しました。予算上の問題から開催は1回にせざるを得ませんでしたが、今回は4演題で構成しましたので、質・量とも2回開催に匹敵する内容であったと考えています。

令和4年度の臨床研究会は予算上の問題を再検討し、年2回の開催を予定しています。今回同様、会場開催とオンデマンド配信を予定しておりますが、会員の先生方のご期待に沿えるような内容にすべくより一層努力する所存です。先生方の忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸甚に存じます。

1. 令和3年度事業計画

- 1) 臨床研究会の開催（年1回）
開催時に保険コーナー併催（社会保険委員会と共催）
- 2) 日本産科婦人科学会・日本専門医機構専門医生涯教育
- 3) 本会・東京産科婦人科学会合同研修会の開催（年2回各ブロックが順次担当）

2. 令和3年度学術部・学術研修委員会合同会議

- 1) 第1回学術部・学術研修委員会合同会議
日 時：令和3年4月15日（木）Zoomによる
通信会議
- 2) 第2回学術部・学術研修委員会合同会議
日 時：令和4年3月28日（月）Zoomによる
通信会議

3. 臨床研究会・学会との合同研修会

- 1) 第41回東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会並びに第397回東京産科婦人科学会例会
医会担当：城東・北ブロック 岡本 哲
学会担当：東京慈恵会医科大学 岡本 愛光
日 時：令和3年5月15日（土）12：55 ～
18：50
会 場：JA 共済ビル カンファレンスホール（ハイブリッド開催）
オンデマンド配信：令和3年5月21日（金）～
5月27日（木）
参 加 者：722名
一般演題 29題
【特別講演】プレコンセプションケアと性感染症
日本医科大学 女性診療科・産科 教授 鈴木 俊治
（座長 東京リバーサイド病院 岡本 哲）
単 位：共通講習（感染対策）
- 2) 第42回東京産婦人科医会・東京産科婦人科学会合同研修会並びに第399回東京産科婦人科学会例会
医会担当：城西・北ブロック 力武 義之
城西・南ブロック 辰巳 賢一
学会担当：城西ブロック 木村 英三
日 時：令和3年12月3日（金）15：00 ～
12月9日（木）15：00
Web開催（オンデマンド配信）
参 加 者：451名
一般演題 36題

【特別講演】不妊治療保険適用時代における着床前検査の位置付け

日本医科大学 名誉教授 竹下 俊行
(座長 梅ヶ丘産婦人科 辰巳 賢一)

単 位：産婦人科領域講習

3) 第307回東京産婦人科医会臨床研究会(多摩ブロック担当)

日 時：令和4年3月6日(日) 12:00～16:00

会 場：新宿ファーストウエスト(現地参加者:58名)

オンデマンド配信：令和4年3月16日(水)～

3月22日(木)

参加者数：216名(現地参加者：15名)

【演題】

1. 閉経後ホルモン補充療法のリスク・ベネフィット

－エストロゲンと黄体ホルモンの選択－

愛知医科大学産婦人科 教授 若槻 明彦
(座長 鶴川レディースクリニック 中林 豊)

共 催：富士製薬工業株式会社

単 位：産婦人科領域講習

2. 子宮頸がん予防としてのHPV検査を用いた検診について

杏林大学産婦人科 准教授 森定 徹
(座長 西島産婦人科医院 西島 重信)

共 催：ホロジックジャパン株式会社

単 位：共通講習(感染対策)

3. コロナ禍での周産期医療

日本医科大学多摩永山病院 院長 中井 章人
(座長 石原レディースクリニック 佐藤 博久)

共 催：科研製薬株式会社

単 位：産婦人科領域講習

4. 保険コーナー 2022年度保険改訂に向けて－支払基金から－

東京産婦人科医会社会保険部担当理事 前村 俊満

単 位：共通講習(医療経済)

4. 本会の共催・後援事業

1) 第15回東京産婦人科臨床フォーラム

日 時：令和3年9月5日(日)～9月11日(金)

Web開催(オンデマンド配信)

共 催：GEヘルスケア・ジャパン株式会社

参加者：800名

講演1. リプロと経腔エコー

慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室 講師 内田 浩

講演2. 見えない病変を見る－子宮内膜と子宮腺筋症の超音波診断－

倉敷平成病院 婦人科(総合美容センター)

部長 太田 郁子

講演3. 産科日常臨床におけるハイエンド超音波診断装置の応用

埼玉医科大学 産科・婦人科 主任教授

亀井 良政

2) 女性医療フォーラム

日 時：令和4年2月26日(土) 17:50～20:30

ハイブリッド開催

共 催：バイエル薬品株式会社

会 場：京王プラザホテル

参加者：会場参加 15名

Web視聴 268名

講演1. LEPの開始率・継続率を上げる外来診療のコツ

赤羽駅前女性クリニック 深沢 瞳子

講演2. 不妊治療保険適用制度設計の問題点と課題

杉山産婦人科 杉山 カー

講演3. 子宮内膜症患者への治療戦略－早期発見とニーズにあった治療の重要性－

奈良県立医科大学 産婦人科教授

木村 文則

5. 令和4年度臨床研究会ならびに会合同研修会の予定

臨床研究会、合同研修会ともに2回の開催を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況により開催形式が変更される可能性がありますのでご承知おき下さい。

1) 臨床研究会

第308回臨床研究会

10月 会場開催・オンデマンド配信予定

1 演題を医業対策部と共催

第309回臨床研究会

3月 会場開催・オンデマンド配信予定

1 演題を癌対策部と共催

2) 合同研修会

第43回合同研修会 5月21日(土)

医会担当 城北ブロック 学会担当 日本医科大

第44回合同研修会 12月10日(土)

医会担当 中央ブロック 学会担当 江東ブロック

《広報部》

担当理事 里見 操緒

広報部

担当副会長	対馬ルリ子
担当理事	里見 操緒
副担当理事	中野 義宏
	長岡 美樹
委員	中山 摂子
委員	石田 友彦
委員	天神 尚子
委員	櫻井 信行
委員	松岡 正造
委員	三輪 綾子

【令和3年度事業計画】

1. 「TAOG ニュース」を原則として年4回発行
2. 東京産婦人科医会会誌を年1回発行
3. 本会広報活動へのインターネット活用と充実化
 - 1) 本会ホームページリニューアル(スマホ対応・サイト整理・SNS対応)
 - 2) 各地区との情報伝達手段方法の検討(非FAX含むデジタル化)

【令和3年度事業報告】

令和3年は新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が始まりましたが、感染終息には遠く、感染拡大予防対策の行動自粛のため、広報委員会はすべて通信会議で行いました。

TAOG ニュースは、例年通り4月号、10月号は東京産科婦人科学会会誌と同梱発送し、7・8月号(会誌54号と同梱)と1月号は単独発行いたしました。

本年より同梱発送をやめ、4回とも単独発刊の運びとなりました。よろしくお願いいたします。

令和3年度会誌(第54号)は、特集1を【コロナを体験して】とし、各地区でご活躍の先生方より、様々な体験談、治療経験談などご寄稿いただきました。特集2は【ポストコロナ】とし、コロナ禍により医療体制の変化やその利点をピックアップし、オンライン診療について、キャッシュレス導入、学会やセミナーのウェブ化など、これから続くコロナ禍での産婦人科医療に活かせる情報として、会員の皆様にお届けできたかと思っています。

医会ホームページ(HP)の運用については、冒頭にもお話ししたように、会議がオールウェブとなり、このような状況を体験し、よりインターネットを介した情報提供の必要性が高まっていると実感しました。当医会のホームページのリニューアルに対し予算策定を行い、事業協力をしてくださる企業の選定をしまいいりました。ようやく令和4年度は、ホームページの改定を実行してまいります。日本産婦人科医会の運用と、共有できるところを活かせるかも検討しており、予算と相談しながら進めていきたいと思っています。今すぐ欲しい情報を、わかりやすく届けられるようにと組んでまいります。

【令和3(2021)年度 広報部委員会 開催日程】

第1回 広報部委員会

日 時：令和3年4月16日(金) 19:00～20:30

会 場：Zoomによる通信会議

出席者：山田会長、高木・松本副会長、
中野・里見理事、
中山・天神・石田・櫻井・松岡・三輪委員

第2回 広報部委員会

日 時：令和3年5月28日(金) 19:00～20:15

会 場：Zoomによる通信会議

出席者：山田会長、高木・松本副会長、
中野・里見理事、天神・石田・三輪委員

第3回 広報部委員会

日 時：令和3年7月9日(金) 19:00～20:15

会 場：Zoomによる通信会議

出席者：山田会長、松本・対馬副会長、
里見・中野・長岡理事、
中山・石田・天神・櫻井・三輪委員

同席者：芝サン陽印刷(株) 尼崎 勝之氏
井口 美加氏
花島 涼 氏

第4回 広報部委員会

日 時：令和3年9月28日(火) 19:00～20:00

会 場：Zoomによる通信会議

出席者：山田会長、松本・対馬副会長、
里見・中野・長岡理事、
天神・石田・櫻井・松岡・三輪委員

第5回 広報部委員会

日 時：令和4年1月7日（金） 19：00～20：30

会 場：Zoomによる通信会議

出席者：山田会長、松本副会長、
里見・中野・長岡理事、
石田・天神・櫻井・松岡・三輪委員

第6回 広報部委員会

日 時：令和3年3月18日（金） 18：30～20：30

会 場：Zoomによる通信会議

出席者：山田会長、松本・対馬副会長、
里見・長岡理事、
中山・石田・松岡・三輪委員、
EXパートナーズ代表 清水修氏

《母体保護部》

担当理事 中野 義宏

母体保護部

担当副会長	莊 隆一郎
担当理事	中野 義宏
副担当理事	中林 稔
担当委員	吉田 正平
担当委員	窪 麻由美
担当委員	青木 弘明
担当委員	三輪 綾子

令和3年度事業

1. 母体保護法の適正なる運用と啓発
2. 人工妊娠中絶報告に基づく統計及び分析
3. プレグランディン膣坐剤使用状況の把握
4. 不妊手術の届出の励行
5. 母体保護法指定医師研修会2回開催（令和3年10月、令和4年2月）
6. 母体保護法指定医師必携の周知徹底
7. 母体保護法指定医師の増員啓発

上記の事業計画のもとに、令和3年の母体保護法の適正な運用を図りました。

令和3年度より担当理事が莊現副会長より中野となり、莊副会長に指導頂きながら既存事業を継承しコロナ禍で大きく変わった環境の中何とか1年が経ちました。

平成23年に改定された母体保護法では、医師会という民間団体が法律に基づく資格（指定医）を審査付与することの重みと疑義が投げかけられながら、一般社団法人となった医師会であっても引き続き指定権が維持されることとなりました。

これは各都道府県医師会にとって大変重要なことであり、平成24年に日本医師会内に「母体保護法に関する検討委員会」が設置され、専門医資格との関係性、審査の厳格化、自己研鑽の一環としての研修への参加などにつき議論がなされ、

- 1) 非会員を排除するような基準であってはならないこと
- 2) 指定医に十分な研修を義務化することで医師会の指定権を保持し、さらにプロフェッショナルオートノミーをより厳格に発揮して適切な運用をはかる

などが論点となり協議された結果、指定権が保持されることになりました。

平成27年4月に母体保護法指定医師の新規指定及び更新時に指定医師研修会の受講証を提出することとなり、日本医師会は指定医師研修機関と指定医師研修連携施設の申請・登録を明確にし、連携施設で指導医師が直接指導することによる人工妊娠中絶手術を行うことを認め、母体保護法指定医師を目指す医師が必要とする20例以上の人工妊娠中絶手術又は流産手術（20例のうち人工妊娠中絶は10例以上を占める）が必要であるために研修症例の増加を図れるようにしました。

上述したように、母体保護法の指定権限を民間団体である各都道府県医師会が有しているため東京都医師会はこれを機に、都の指定医師指定基準を改定し指定医師研修会の在り方に特に重きを置き注視しました。

適正な人工妊娠中絶を行うことのできる施設および手技を取得した母体保護法指定医師数の確保と増加が、その実務を担当している本会として必要不可欠であり、今後も指定医師の取得に向けて委員会を中心に協議を進め、指定権者である東京都医師会と連携し、当会の会員である先人の指定医師が培ってきた名誉が損なわれないように努力することが重要な責務であると痛感しています。

「母体の生命健康を保護する」母体保護法の趣旨と使命を遂行するためにも、多くの産婦人科医に母体保護法指定医師の資格を取得してもらうために「母体保護法指定医師の指定基準」の再改定がなされ、多くの産婦人科医に取得してもらい、法令順守に基づいて患者様にとって安心安全な手技による手術を行ってもらう事を願っております。

令和3年度母体保護法指定医師研修会報告

令和3年度は指定医師研修会を2回開催する予定でしたが、緊急事態宣言等コロナ禍の継続により10月17日（日）第1回研修会開催予定をハイブリッド開催とし、翌年2月13日（日）の開催をオンライン開催といたしました。

ハイブリッド開催の際は不手際により多くの指定医師の先生方には大変ご迷惑をお掛け致しましてこの場を借り致しましてお詫び申し上げます。予算を節約しての開催を目指したため、準備不足となり混乱を招いてしまいました。2回目のオンライン開催

では不手際のないよう前回収録した録画での完全オンライン開催とし確実な運営を心掛けました。厳格な資格取得講習のため原則対面での開催となっておりますが感染状況の実情も踏まえこのような形で開催いたしました。

令和3年母体保護法指定医師研修会講師

日 時：令和3年10月17日（日）

（一橋講堂・ハイブリッド開催）

生命倫理：平池 修（東京大学産婦人科）

母体保護法：石渡 勇（日本産婦人科医会）

医療安全：森岡 一郎（日本大学小児科）

日 時：令和4年2月13日（日）

（ライブ配信・VC永田町）

生命倫理：平池 修（東京大学産婦人科）

母体保護法：石渡 勇（日本産婦人科医会）

医療安全：森岡 一郎（日本大学小児科）

コロナ禍における時代の趨勢に合わせハイブリッド開催を行いました。急速なオンライン需要に現状には医療関係での委託費用が高騰しており、安価な自前運営か、高額な委託の2択を迫られておりました。オンライン開催のメリットは学会等で皆様も感じておられるように参加のハードルが下がる事です。移動せずにどこでも受講できることは多忙を極める産婦人科医にとって好都合であります。一方、資格審査の講習会であるために受講確認を厳密にせねばならない事やデジタルデバイドの問題もありデジタル化移行へはいくつか大きな課題があります。世の中的にはこのデジタル化潮流は必然なので課題解決に向けていく所存です。

母体保護法指定医師研修医師数と研修会報告としましては、

母体保護法指定医師総数 749名

既受講者 405名

未受講者 344名

第1回研修会（R3.10.17）参加者 246名

第2回研修会（R4.2.13）参加者 159名 合計 405名

次年度は残り344名の受講が必要となり令和4年5月と9月に開催を予定しております。

近年人工妊娠中絶数は統計上やや減少しておりますが指定医師数に関しましては、当指定医師の高齢化及び更新審査の変更（母体保護法指定医師研修会の参加義務等）により東京都の指定医師数も平成28

年度647名と一時的に減少していましたが、令和3年度更新者数は752名と増加傾向となっております。

新たな「母体保護法指定医師の指定基準」「指定医師研修連携施設における指導医による直接指導下での人工妊娠中絶の研修が可能」の運用がなされることにより、母体保護法指定医師の資格を取得するための選択肢が増えた関係もあり資格を取得する先生方が増加傾向にあります。

母体保護法指定医師は技能による法律上の指定医師資格ですので、東京産婦人科医会としましてもこれまで以上に有資格者、特に多くの若手医師も指定医師を取得して下さるよう努力を惜しまない覚悟であります。

近年も人工妊娠中絶によるトラブルの報道がありました。まさに我々産婦人科医師がこれまで守り続けていた資格を踏みにじり最も行ってはならない行為で、当然の如く母体保護法違反となり、「業務上墮胎罪」に問われると同時に各都道府県医師会の調査により、母体保護法指定医師の資格停止などの処分の他に、殺人罪の適応がなされる可能性すらありますので、母体保護法指定医師の資格取得は大変重きのある資格だと思っております。

そのために指定医師の先生方にも指定医師の遵守すべき項目を常に忘れないよう願うためにも、母体保護法指定医師研修会の受講を義務付け2年に1度という短期間での更新となる訳です。母体保護法の解釈も時代と共に変化しております。どうぞ母体保護法の適切な運用に関しましては、いま一度「指定医師必携」をご覧くださいようお願い致します。

令和4年度母体保護法指定医師研修会開催の在り方について

新型コロナウイルスにより急激な生活様式の変容がもたらされました。また社会情勢も不安定となり、我々にとっても平和で変わらない世界が当たり前ではないかもしれません。様々な環境変化に対して柔軟に対応する事は必然ではありますが、母体保護法指定医師は母体保護法と言う法律に則った資格でありますので厳正に運営していかなければなりません。

ニューノーマルの時代ではありますが、引き続き日本産婦人科医会、東京都医師会と連携を取り、可能な限りリアル開催を重視しつつ情勢に沿った運営を心掛けてまいりますので何卒宜しくお願い申し上げます。

《母子保健部》

担当理事 谷垣 伸治

母子保健部

担当副会長	対馬ルリ子
担当理事	谷垣 伸治
副担当理事	武知 公博
母子保健委員会	
委員	関沢 明彦
委員	宮内 彰人
委員	本多 泉
委員	松島 実穂
委員	水口 雄貴
委員	山岸 絵美

令和3年度事業計画

1. 東京都周産期救急医療体制の検討と整備
2. NCPR 講習会の普及活動
3. 母体救命講習会の実施
4. 新生児聴覚スクリーニング検査の実績と評価の検討
5. HTLV-1キャリア妊婦と出生児のフォローアップ体制の構築

1. 東京都周産期救急医療体制の検討と整備

本部会では東京都周産期医療協議会に参加し、周産期医療供給システム構築・運営に協力しています。

①母体救命搬送システムの状況

母体救命対応総合周産期センターは、昨年同様、昭和大学、日本赤十字社医療センター、日本大学医学部附属板橋病院、墨東病院、多摩総合・小児総合医療センター、杏林大学医学部附属病院の6カ所が指定されました。

令和2年度の実績は、搬送例は227例（転院搬送147例、一般通報80例）であり、過去最高水準であった昨年度より32例減少しました。搬送理由は、これまでと同様、出血性ショック、産科DIC、激しい腹痛、意識障害が大部分を占めています。重篤・重症症例の割合は52.9%であり、平成30年度より増加した昨年度と同様の割合です。覚知から病着（救急隊連絡から収容先病院到着）までの時間は平均41.9分であり、本システム運用開始以来最速であった昨年度より延長していますが、例年同様の時間を維持しています。本年度は、母体救命搬送例の中に母体死

亡例を認めず、本システムの有効性を示す結果の一つと思われます。

②胎児救急搬送システム

東京都周産期搬送システムに平成25年3月より、「常位胎盤早期剥離」、「早産期の胎児機能不全」に特化した胎児救急搬送システムが加わり、運用が開始されています。令和2年度は、10例あり、母体死亡例はありませんでした。これまで179例が本システムにより搬送され、死産が9例、そのほかの死亡が6例でした。システム運用開始前（早剥搬送例の児死亡率：約27.5%）と比較すると大幅に改善していますが、本システムの有効性と浸透についての評価を継続していきます。

③災害時における周産期医療体制の構築

小児・周産期医療に係る保健医療活動の総合調整に必要な知識及び技能を有する「災害時小児周産期リエゾン」を養成しました。災害時小児周産期リエゾンは、自都道府県及び近隣県の被災時に、保健医療調整本部等において小児・周産期医療に関する情報を集約し、適切な助言及び支援を行います。本年度はブロックごとに、産科医、小児科医各1名がリエゾンに指名されております。

2. NCPR（新生児蘇生法）の普及活動

昨年度に引き続き、東京都新生児蘇生法研修事業と共催し、日本周産期・新生児医学会公認NCPR（新生児蘇生法）の研修会を実施しました。23区内は母子愛育会総合母子保健センター愛育病院ならびに同センター愛育クリニック（令和4年3月12日 28名参加）、多摩地域は杏林大学医学部附属病院（令和4年3月5日 45名参加）において開催しました。COVID-19感染症のため、両会場合わせキャンセル25名、欠席が5名認められました。本事業は来年以降も継続の予定です。

3. 母体救命講習会

昨年度は中止となりました、本会と東京都産科救急研修事業共催の日本母体救命システム普及協議会の母体救命公認講習会（JCIMELS）は、中林病院助産師学院（午前18名、午後18名参加）、慶應義塾大学（午前15名、午後17名参加）、杏林大学医学部附属病院（午前18名、午後16名参加）で計6回開催されました。本事業も来年以降も継続の予定です。

4. 新生児聴覚スクリーニング検査の実績と評価の検討

令和2年度関東ブロック産婦人科医会において新生児聴覚スクリーニングについてアンケート調査が行われ、令和3年1月発行の関東ブロック産婦人科医会会報に母子保健委員会報告として掲載されました。

5. HTLV-1キャリア妊婦と出生児のフォローアップ体制の構築

公費補助下でHTLV-1抗体検査が実施されていますが、フォロー体制及びスクリーニングの効果の検証が不十分です。また、HTLV-1キャリア女性の児や自身についての不安に対し、相談場所がわからな

いことが課題となっています。厚労省よりHTLV-1キャリアの実態把握やケアの強化をモデル地区として東京において実施できないか提案があり、東京小児科医会と協働しHTLV-1東京ネットワークを構築することに致しました。令和3年度は、都内総合周産期母子医療センターと過去に実績のある日本医科大学多摩永山病院に、HTLV-1キャリアと診断された妊婦の相談窓口として本ネットワークに参加頂くべく、説明会を開催しました。

母子保健部ではこれらの活動を通じ、東京都の周産期医療の質の向上と安定供給に努めて行く所存です。また、そのために先生がたのご理解とご協力をお願いするものです。

《社会保険部》

担当理事 前村 俊満

社会保険部

担当副会長 松本 和紀
担当理事 前村 俊満
副担当理事 堀 量博
社会保険委員会
委員長 藤間 芳郎
委員 下司 有美
委員 篠原 洋介
委員 石田 友彦

令和3年度社会保険委員会報告

今年度は、医療保険改訂の年です。特任今回は不妊症の保険適応となり産婦人科開業医にとって大きな変化となる年になると思われる。会員にとって不利益および齟齬とならないように指導していきたい。

コロナ感染の影響で、意見交換会、支払基金・国保連合会意見交換会など開催できず、保険改定後の令和4年5月に開催予定とした（期日未定）。

関東ブロック社保協議会は、各都県の委員の先生方での関東地区を中心とした質疑を、神奈川担当で行った。

東京産婦人科医会への質問と回答を挙げる。

1. Q：女性外性器腫瘍摘出術について

尖圭コンジローマに対して女性外性器腫瘍提出術を算定したところ、腔壁尖圭コンジローマ切除術に振り替え査定された医療機関から、女性外性器腫瘍摘出術の適応になる疾患はどのようなものかとの質問があった。

A：尖圭コンジローマではなく、相当の大きさの外陰腫瘍（皮下脂肪腫、類皮囊腫など）が対象になります

2. Q：病理組織標本作製について

子宮頸管ポリープ切除術と子宮内膜組織診を行った場合、採取部位が異なり、各々の採取部位に

対する傷病名があれば2臓器の算定で良いか。保医発通知より子宮頸部と体部は1臓器で算定することから2臓器を1臓器の算定で如何かとの申し出が多い。

子宮頸管ポリープ切除術と子宮内膜細胞診であれば可か。

A：同日に行った場合には組織検査は1臓器で算定する。

組織診と細胞診は別途であるが病理診断料は1回である。

3. Q：ホルモン剤の投与のないレセプトで婦人科特定疾患治療管理料の算定は可か。

ミレーナをその月以外で算定している場合、婦人科特定疾患治療管理料の算定は可か。

A：ミレーナ使用中であれば詳記として記載し分かる様にすることが望ましい。

4. Q：Dダイマーの複数回の算定について

Dダイマーを複数回（4～5回/月）に算定してくるケースがあるが、以下のような場合はどうか。

A：①切迫早産（30週）、前月のDICの疑い

②切迫早産（28週）、当月のDICの疑い

③前置胎盤、当月に帝王切開術、術後に静脈血栓症の疑い

④COVID-19、切迫早産、重症感染症、当月に帝王切開術

④、②、③ともに疑いであれば月に1回程度が原則。

④は術前検査として算定は可。

5. Q：ヤーズフレックスとヤーズの同時処方について

診療実日数1日でヤーズフレックスとヤーズを処方してくる医療機関があります。

必要性について詳記を求めたところ、{ヤーズフレックスを内服した後に続けてヤーズを服用するように指示しています}との返事でした。良いのでしょうか？

A：同時多剤処方となり不可

《医業対策部》

担当理事 中島由美子・中林 豊

医業対策部

担当副会長	松本 和紀
担当理事	中島由美子
	中林 豊
副担当理事	坂田 優
委員会委員長	小川 隆吉
副委員長	飯野 孝一
委員	加藤 寛彦
委員	林 茂興
委員	永石 匡司
委員	市毛 敬子
委員	角 ゆかり

I. 令和3年度事業計画

1. 妊娠期から産後まで支援を必要とする養育者への切れ目のない支援体制の構築
 - 1) 産婦健診を含めた周産期・産後ケア事業の見直しとガイドラインの作成
 - 2) 産婦健診における精神科や行政との連携システムの構築
2. 東京都人権部との連携協力による性犯罪等被害者支援
 - 1) 東京都性犯罪被害者等支援およびSARC東京の周知と連携構築
 - 2) 東京都人権部と合同主催で、性犯罪・性暴力被害者支援研修会の開催
(東京都産婦人科医会臨時研修会として、研修単位を付与)
3. 東京都における不妊検査等助成事業特に就労支援の重要性の周知協力
4. 災害時周産期医療体制の構築への協力
5. 児童相談所および要保護児童対策地域協議会における専門人材確保等および速やかな虐待通告の周知について
6. キャッシュレス決済に向けた情報収集と手数料問題の解決に向けた連携
7. SNSによる中傷被害について情報収集と対策の検討
8. COVID-19対策に向けたアンケートと情報提供

II. 令和3年度事業報告

前掲の事業計画に基づき、報告いたします。

1. 妊娠期から産後まで支援を必要とする養育者への切れ目のない支援体制の構築
 - 1) 産婦健診を含めた周産期・産後ケア事業の見直しとガイドラインの作成
 - 2) 産婦健診における精神科や行政との連携システムの構築
⇒産婦健診公費助成について、平成29年度から国が推し進めてきたが、区市町村が実施主体のため、東京都では滞っていた。しかし令和3年10月より葛飾区で開始されたのを契機に、実施される機運が高まっている。医会でも、東京都医師会、各地区医師会等への働きかけを行い、早期の都内全域での実施をめざして活動している。これに伴い、精神科診療所協会との連携もすすめている。
2. 東京都人権部との連携協力による性犯罪等被害者支援
 - 1) 東京都性犯罪被害者等支援およびSARC東京の周知と連携構築
 - 2) 東京都人権部と合同主催で、性犯罪・性暴力被害者支援研修会の開催
(東京都産婦人科医会臨時研修会として、研修単位を付与)
⇒東京都人権部主催東京都産婦人科医会共催により、令和3年11月29日(月)9時～同年12月24日(金)17時までの約1か月間
Youtubeの限定公開機能を用いて、専用チャンネルにてオンデマンド配信された。システム上、今回は研修単位の付与ができなかったにも関わらず、参加医師194名中産婦人科医179名にご参加いただいた(令和2年度は参加医師140名中産婦人科医73名)。
3. 東京都における不妊検査等助成事業特に就労支援の重要性の周知協力
⇒日本医師会及び東京都医師会からの「不妊治療をうけやすい職場環境整備の支援及び働く女性の母性健康管理に関する周知の協力依頼」を受け、をHPに掲載、会員に周知した。

4. 災害時周産期医療体制の構築への協力

医会として積極的に構築を図るのは困難であり、学会主導の体制（大規模災害対策情報システムPEACE）に協力するとし、東京ではPEACE登録が少ないので医会としてはそれを増やす努力をすべく（開業医の）分娩取り扱い施設に改めて登録を呼びかけた。

5. 児童相談所および要保護児童対策地域協議会における専門人材確保等および速やかな虐待通告の周知について

⇒東京都要保護児童対策地域協議会は、新型コロナ禍のため、書面開催となった。当会では、引き続き妊娠期から産後にかけて、経済的または精神的に苦しむ妊産婦の早期発見、支援、行政等との連携に努めるよう協力、周知していく。

東京都児童虐待対応研修（基礎講座2回、専門講座5回）の会員周知を行った。

6. キャッシュレス決済に向けた情報収集と手数料問題の解決に向けた連携

⇒令和3年12月3日より同年12月15日に、グーグルフォームを用いた第2回アンケートを行った（令和3年1月5日時点会員1271名中メールアドレスの届け出がある793名にアンケートを送付、96名より回答があった）。

結果：1）キャッシュレス導入は病院93.2%有床診療所66.7%無床診療所57.5%

2）決済法は、クレジットカード（以下クレカ）のみが75%、クレカと電子マネーとQRコード決済すべてに対応が12.5%、クレカと電子マネーのみが9.7%

3）保険診療の支払いにキャッシュレスを導入しているかについて病院は100%有床診療所は62.5% 無床診療所は87.0%であった。

4）導入していない医療機関では65.7%が今後も導入の予定はないと答えた。

5）キャッシュレスについて、当然・賛成が52.1% やむをえない、が32.3%であわせると8割以上の医療機関が受け入れる意向との意見であった。

6）保険診療とキャッシュレスについては懐疑的な意見が多く、また手数料が高いことが問題であり、医会に対策を求めるとする意見が多かった。

参考：近年クレカの手数料を下げたキャッシュレスシステムが登場してきており手数料3%以上のところが1.5%前後のため、導入の際の検討材料として紹介した。

1. 三井住友銀行 Stera pack
2. Ciメディカル Ci PayLight

7. SNSによる中傷被害について情報収集と対策の検討

⇒令和3年12月3日より同年12月15日にグーグルフォームを用いた第2回アンケートを行った（令和3年1月5日時点会員1,271名中メールアドレスの届け出がある793名にアンケートを送付、79名より回答があった）。

結果

- 1）SNS上の評価について、
閲覧したことがある：86.1%
書き込みが不適切または中傷であると感じた：63.3%
- 2）書き込みへの対応について
何もしなかったもしくは無視：65.8%
「書き込みに返信」：8.9%
「SNS管理者に抗議または削除依頼」：8.9%
「自身または第三者に依頼して削除」：2.5%
- 3）書き込みにより業績の変化があったかどうかについて
「特に変わらなかった」：68.4%
「自身やスタッフの気分の低下があった」：31.1%
「何らかの規制が必要である」：77.2%

8. COVID-19対策に向けたアンケートと情報提供

第三波の後、第四、第五、第六と続き、アンケートの意味が曖昧となってきたため、当面の間、アンケートの実施は見送ることとした。

Ⅲ. 医業対策委員会開催

令和3年度も新型コロナ蔓延のため開催が困難となり、下記の要領でWEB開催となった。

第1回委員会

日 時：令和3年7月30日（金）午後7時より
出席者：山田正興（会長）、松本和紀（副会長）、
中林豊（担当理事）、中島由美子（担当理事）、
坂田優（副担当理事）、小川隆吉、
飯野孝一、永石匡司、角ゆかり、市毛敬子
新任委員自己紹介（角ゆかり先生、市毛敬子先生）
委員長選出 小川隆吉先生
議 題：1. 令和2年度医業対策部・委員会事業
報告
2. 令和3年度医業対策部事業計画
3. その他

第2回委員会

日 時：令和3年11月5日（金）午後7時より
出席者：山田正興（会長）、松本和紀（副会長）、
中林豊（担当理事）、中島由美子（担当理事）、
坂田優（副担当理事）、小川隆吉、
飯野孝一、林茂興、永石匡司、角ゆかり、
市毛敬子
議 題：1. 令和4年度医業対策部事業計画（案）
2. 令和4年度医業対策部予算（案）
3. 医業対策委員会名簿確認、および記
載承諾について
4. 産婦（産後）健診公費助成の要望
5. 令和3年度性暴力・性犯罪被害者支
援のための医療従事者講習
6. その他
報 告：東京都児童虐待対応研修（専門講座第2
回）の案内周知

第3回委員会

日 時：令和4年1月5日（水）午後6時30分より
出席者：山田正興（会長）、松本和紀（副会長）、
中林豊（担当理事）、中島由美子（担当理事）、
坂田優（副担当理事）、小川隆吉、
飯野孝一、林茂興、加藤寛彦、角ゆかり、
市毛敬子
議 題：1. 新しいキャッシュレス決済（stera
pack）について
・三井住友銀行からの提案（担当岩佐
様 zoom 参加）
・Ciメディカルからのプラン（資料
のみ）

2. キャッシュレスおよびSNSに関す
るアンケート報告
3. 産婦健診公費助成要望書について
4. その他

報 告：東京都児童虐待対応研修（専門講座第4
回、5回）の案内周知

IV. 「令和3年度全国医業推進担当者伝達講習会」参加

日 時：3月20日（日）Zoom 会議にて開催され
委員が参加した。

講演内容

1＜特別講演＞

「診療所の事業承継（税制を中心として）～医療
法人の場合・個人開業の場合～」

演者：青木恵一先生（税理士法人青木会計代表社員）

2＜連絡・協議＞

- 1) 「COVID-19流行が産婦人科医療に及ぼした
影響－2020年3月～2021年2月の施設アン
ケート分析より－」

田村秀子小委員長

- 2) 「婦人科診療におけるオンライン診療の実際
～オフィス гинекоロジーの収益確保と対策を
含めて」

田村秀子小委員長

- 3) 「医師の働き方改革」が産婦人科医業経営に
与える影響について有料診断を中心に

前田津紀夫副会長

- 4) 「緊急避妊薬のスイッチOTC化の動向とHPV
ワクチン積極的勧奨再開に向けた課題」

種部恭子常務理事

- 5) 「保険諸問題医療保険部会から不妊症の保険
適用化も含めて」

宮崎亮一郎常務理事

V. 結語

言うまでもなく COVID-19による診療への影響は
甚大で、加えて、少子化の波、世界経済の不安定、
一方でジェンダーの問題、性暴力・性被害の問題、
フェムテック、プレコンセプションなど、産婦人科
医業を取り巻く状況は日々変化しており、ますます
充実した情報収集及び提供が必要と思われます。現
状はまだまだ不十分ですが今後も会員の役に立つ情
報を発信していきたいと存じますのでよろしくお願い
申し上げます。

《医療事故対策部》

担当理事 岩田みさ子

医療事故対策部

担当副会長 対馬ルリ子

担当理事 岩田みさ子

担当副理事 水主川 純

医療事故対策委員

委員 小田 英之

委員 岩倉 弘毅

委員 原 澄子

委員 栃木 明人

委員 間崎 和夫

委員 菅原 恒一

委員 大川 豊

委員 砂倉 麻央

1. 2021年度事業計画

- ①偶発事例の情報収集と日本産婦人科医会及び東京都医師会との連携
- ②医事紛争処理解析およびノンテクニカルスキルについて、TAOG ニュースなどで広報
- ③医療事故調査制度、妊産婦重篤合併症報告事業、JALA 有害事象収集事業への対応
- ④行政及び医師会等の情報を集約して、医療安全に向けての会員支援

2. 令和3年度偶発事例報告

2021年度は東京都産婦人科医会への偶発事例報告は13件であった。2019年は25例、2020年は16例であり減少傾向が続いている。内訳は①妊娠分娩に伴うものが6件で、そのうち子宮破裂が3件、②産科処置・手術に伴うものが2件で子宮穿孔と麻酔合併症、③産後の合併症が1件、④新生児に関連するものが4件であった。

日本産婦人科医会医療安全部の妊産婦死亡報告事業で、2021年の報告は6件であった。妊娠・分娩関連の合併症は劇症型A群溶連菌感染症と心肺虚脱型羊水塞栓症の2件で、あとの4件は偶発的な合併症が原因であった（資料1）。

昨年11月に行われた全国医療安全担当者連絡会で、偶発事例報告事業の2020年の事例解析結果が発表された。妊産婦死亡は平成22年以降より妊産婦死亡報告事業として独立して運用されている。2020年

偶発報告340事例の内訳は、妊娠・分娩に関わる事例が253例（74.4%）、婦人科診療に関わる事例が77例（22.6%）、不妊診療に関わる事例が10例（2.9%）。死亡例65例では、ほとんどが胎児・新生児で妊産婦の死亡はゼロであった。無痛分娩にかかる事例は2015～2018年に比べると以降は減少傾向である（資料2）。

3. 東京産婦人科医会への問い合わせへの対応

2021年度は次の4件であった。①分娩損傷の腕神経叢麻痺、②妊娠中絶術時の子宮穿孔、小腸穿孔、③コルポスコピーで酢酸を希釈せず原液で使用したことによる化学熱傷、④帝王切開後のガーゼ遺残。

今年度に医療事故ヒアリングシートを作成した。会員からの問い合わせがあった際、ヒアリングシートを用いることで円滑に対応できた。相談者へは、以下のように案内をしている。①東京都医師会会員かつ医師賠償責任保険加入の場合は、東京都医師会の医療安全部に相談を。②東京都医師会会員ではない場合は契約している医師賠償責任保険に連絡するように。③母体死亡、新生児死亡などの場合は、東京都医師会だけではなく、日本産婦人科医会にも報告が必要。④妊産婦重篤合併症（劇症型A群溶連菌感染症、大動脈解離、脳出血、心肺虚脱型羊水塞栓症、肺血栓塞栓症、周産期心筋症）は東京産婦人科医会と日本産婦人科医会に報告が必要（資料8）。

4. 医療事故対策委員会の開催

議題は、1. 令和3年度偶発事例報告、2. 令和3年度全国医療案園担当者連絡会について、3. 日本産婦人科医会妊産婦重篤合併症事業、4. 医療事故調査制度研修会について、5. 2022年度事業計画、6. その他である。議事録は以下の通りである。

日 時：令和4年3月10日（木）18：30～

場 所：Web会議（Zoom）

出席者：8名、会長：山田正興

副会長：対馬ルリ子、松本和紀

理事：岩田みさ子、水主川純

委員：原澄子、間崎和夫、砂倉真央

○挨拶

山田会長、対馬副会長、松本副会長、水主川副担当理事、岩田担当理事

令和3年度委員の交代あり、永井先生が退任、砂倉先生が着任。砂倉先生より挨拶。

○議題

- (1) 令和3年度偶発事例報告（資料1, 2）（前述）
- (2) 令和3年度全国医療安全担当者連絡会について（資料3, 4）
- (3) 日本産婦人科医会妊産婦重篤合併症報告事業について（資料5）
2021年度より開始された。
- (4) 医療事故調査制度研修会について
 - ①第11回医療事故調査制度研修会（2021年12月16日開催）の報告（資料6）
 - ②2022年3月5日（土）コロナ感染拡大のため開催中止
 - ③次回開催 2022年7月14日（木）19:00～21:00 於：東京都医師会館
- (5) 2022年度事業計画（資料7）2021年度より引き続き同様に行っていく。
- (6) その他
 - ①2021年度の医療事故関連の問い合わせは4件（前述）
 - ②医療事故ヒアリングシートについて（前述）

【資料】

資料1：偶発事例報告

資料2：偶発事例報告_R03解析

資料3：JAOGニュース2021年12月号掲載記事

資料4：第30回全国医療安全担当者連絡会

資料5：医療事故対策委員会 妊産婦重篤合併症報告事業

資料6：20211109医療事故調査制度研修会の開催について

資料7：2022年度事業計画

資料8：医療事故ヒアリングシート

5. 今後の課題

医療事故を繰り返す医師については、日本医師会医師賠償責任保険、産科医療保証制度の中で課題となっている。東京産婦人科医会の中では会員への支援活動の一環として対応を検討したい。

これまで東京産婦人科医会医療事故対策部は、会員への医療安全情報をTAOG Newsおよび会誌で提供してきた。また母体保護法指定医師には、東京産婦人科医会として医療安全講習が提供されている。医療安全に関する会員研修会は今後の課題である。

今後、東京産婦人科医会のホームページのリニューアルが計画されており、それに合わせてホームページ上で会員へ向けて医療安全情報をわかりやすく発信したい。

《病院部》

担当理事 水主川 純

病院部

担当副会長	莊 隆一郎
担当理事	水主川 純
副担当理事	前村 俊満
委員会委員長	原 澄子
委員	有馬 香織
委員	石田 友彦
委員	大槻 克文
委員	落合 大吾
委員	長嶋 武雄
委員	兵藤 博信
委員	平尾 薫丸
委員	前田 大伸
委員	柳田 聡
委員	山岸 絵美

令和3年度事業計画

1. 東京都産婦人科勤務医の職場環境、女性医師の支援体制に関する調査
2. 医師の働き方改革に関する課題と情報提供
3. 若手医師育成・支援のための課題と情報提供
4. 薬剤、医療資材、診療機器の情報提供

令和3年度の病院部の事業計画は、東京都産婦人科勤務医の職場環境の調査、女性医師の支援体制に関する調査、医師の働き方改革に関する課題と情報提供、若手医師育成・支援のための課題と情報提供、薬剤、医療資材、診療機器の情報提供である。

令和3年度事業報告

2021年の日本産婦人科医会勤務医委員会による「産婦人科勤務医待遇改善と女性医師の就労環境アンケート」をもとに東京都のデータ分析を行い、勤務医委員会（令和3年11月15日開催：Zoomによる通信会議）で検討が行われた。

東京都内の産科医療機関97施設にアンケート調査票が送付され、71施設から回答があった（アンケート回収率：73.1%）。

1施設あたりの平均医師数では、常勤医師数11.4人、非常勤医師数5.4人であり、いずれも2017年の調査と比較して約1人増加していた。1施設あたり

の平均分娩数は653.0件、平均帝王切開件数は181.0件、平均母体搬送受入数は35.6件、平均婦人科手術件数は275.6件であり、いずれの項目も昨年と比較して減少した。

当直翌日の勤務緩和体制を導入している施設は54.9%、交代勤務を導入している施設は9.8%であった。当直翌日の勤務緩和体制を導入している施設の割合は増加しており、当直翌日の勤務が緩和される傾向が昨年度の調査と同様に示された。また、分娩手当が支給されている施設の割合は57.7%、短時間正社員制度が導入されている施設の割合は52.1%であり、いずれも昨年より増加した。

総合周産期母子医療センター（以下、総合群：11施設）地域周産期母子医療センター（以下、地域群：11施設）、周産期母子センターの指定がない医療機関（以下、指定なし群：49施設）の施設機能別に分類した検討では、1施設あたりの平均常勤医師数は総合群では24.8人、地域群では19.3人、指定なし群では6.7人であり、平均非常勤医師数は総合群では8.5人、地域群では6.2人、指定なし群では4.5人であった。

1施設あたりの平均分娩数は総合群では1201.5件、地域群では779.6件、指定なし群が511.9件であった。1施設あたりの帝王切開件数や母体搬送受入件数に関しても、総合群、地域群、指定なし群の順に件数が多かった。平均婦人科手術件数に関しては、地域群が511.6件と最多であり、総合群が442.1件、指定なし群が189.5件であった。

交代勤務を導入している施設の割合は総合群が27.3%、地域群が9.0%、指定なし群が6.3%であり、当直翌日の勤務緩和体制を導入している施設は総合群が90.9%、地域群が63.6%、指定なし群が45.8%であった。短時間正社員制度が導入されている施設の割合は、総合群が63.6%、地域群が45.4%、指定なし群が52.1%であり、総合群が他群より高かった。

新型コロナウイルス感染症（coronavirus disease 2019：COVID-19）と勤務体制に関する検討では、出勤が制限された医師が認められた施設は32施設（45.1%）であり、その医師の総数は120人であり、（常勤医師92人：1-29人/施設、非常勤医師28人：1-7人/施設）であった。自院からの医師派遣中止が行われた施設と自院への医師派遣中止が行われた施設は、それぞれ13施設（18.3%）、26施設（36.6%）であった。また、施設機能別の検討では、出勤が制限された医師が認められた施設の割合は、総合群が

81.8%、地域群が72.7%、指定なし群が31.4%であった。自院からの医師派遣中止が行われた施設の頻度に関しては、地域群が45.5%と最も高く、自院への医師派遣中止が行われた施設の頻度は、指定なし群が52.6%と最も高かった。

今年度の調査結果では、1施設あたりの平均分娩数・帝王切開件数・母体搬送受入数・婦人科手術件数は、いずれも昨年と比較して減少していた。1施設あたりの平均分娩数と平均帝王切開件数に関しては、昨年の調査結果においても一昨年の調査結果として減少しており、東京都における出生数や死産数が減少傾向にあることに影響を受けている可能性がある。

COVID-19の感染拡大下では外出自粛に伴い自宅で安静に過ごす時間が増えたことにより、産科合併症が減少したという報告もある。また、入院前にCOVID-19のスクリーニング検査を実施している医療機関も多く、緊急搬送ではCOVID-19の感染拡大前に比較して時間や労を要することが少くない。したがって、産科合併症が認められた場合は、緊急搬送に至る前に外来への紹介が早期に行なわれることにより緊急搬送が減少している可能性が指摘された。これは母体搬送受入数の減少の一因と考えられた。婦人科手術件数の減少に関しても、COVID-19の感染拡大下における診療規模の縮小や待機可能な手術の延期等が影響している可能性が指摘された。

COVID-19の感染拡大に伴い自院からの医師派遣中止が行われた施設の頻度に関しては、地域群が最も高く、自院への医師派遣中止が行われた施設の頻度は、指定なし群が最も高かった。1施設あたりの平均常勤医師数は総合群では24.8人、地域群では19.3人、指定なし群では6.7人であることより、指定なし群では大学病院等からの派遣医師による外来や

当直の業務により診療体制を維持している医療機関も多い。また、大学病院等から派遣される医師は派遣先の医療機関で大学では経験できない業務に当たることによって学ぶこともある。2024年度から開始される医師の時間外労働時間の上限規制が始まると、副業・兼業先の医療機関宿日直許可を取得していない場合は、当該医療機関で行った勤務時間も総労働時間に通算されることになる。そして、大学病院等からの宿直、日直勤務を行う医師の応援を受ける医療機関では、このような応援を受けることが困難になる可能性があり、周産期医療体制への影響が懸念されている。このような状況から2021年11月には日本医師会により「産科医療機関における宿日直許可に関する調査」も実施された。働き方改革においては産婦人科医の集約化も重要事項の一つではあるが、病院と診療所が共存・共栄できる体制の確保が望まれる。

働き方改革は労働環境や医療安全の観点では望ましい変化である。COVID-19の感染拡大が医療体制に影響する日々が続いているが、多様なワーク・ライフ・バランスの実現するために働き方改革が推進されることも望まれている。引き続き、本部会でも調査を行うとともに、情報発信も行いたい。

令和3年度病院部会・勤務医委員会合同会議開催日程

日 時：令和3年11月15日（月）午後6：30～8：00

於 ：ZOOMによる通信会議

出席者：山田正興会長、莊隆一郎副会長、
水主川純理事、兵藤博信・大槻克文・
落合大吾・有馬香織・前田大伸・
原 澄子・山岸絵美各委員、
松本和紀副会長（オブザーバー）

《癌対策部》

担当理事 木口 一成

癌対策部

担当副会長	松本 和紀
担当理事	木口 一成
副担当理事	岩田みさ子
癌対策委員	
委員長	坂本 優
委員	高橋 峰夫
委員	高野 利興
委員	井上 裕子
委員	佐久間達朗
委員	関根 憲

(順不同敬称略)

令和3年度事業計画

【癌対策部】

1. 各地区の子宮がん検診、乳がん検診実施状況調査結果の報告および課題克服の徹底
2. ベセスダシステム（子宮頸部細胞診報告様式）：導入の推進
3. マンモグラフィ検診の推進
4. 若年層における乳がん検診・超音波検査の検討
5. 液状検体採取法LBC：導入の推進
6. HPV ワクチン接種勧奨のより一層の推進

I. がん対策委員会としての活動報告

新型コロナウイルス感染予防対策として第1回を令和3年7月20日（火）（ZOOM）によるWEB開催、第2回を令和3年9月24日（金）に紙面開催の形にて開催した。

がん対策委員会における協議事項のまとめ

1. 令和2年度公費婦人科がん検診実施状況調査報告について

本年度も例年通りのアンケート内容で、59地区（回収率100%）の自治体より結果を回収した。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、受診率の低下が心配されたが、幸いにも本年度は最終的にはコロナ以前の状態まで戻る可能性が期待される。

①子宮がん検診について

- ・LBCの導入に関しては、導入済・導入検討中・検討したい施設の合計が前年度並みの25地区

（44.6%）を占めているが、今後の国の検診指針の変更を考えると、やや不安を覚える結果であった。

- ・ベセスダシステムの表記に関しては、単独表記が、2014年から義務付けられているにもかかわらず、未だに14地区（25%）において日母分類との併記が行われているという由々しき状態であり、各地区の担当者に再度改善を求めるよう、厳重に指導させて頂くつもりである。
- ・体癌検診については行政検診として認められていないにも関わらず、25地区（44.6%）の地区で施行されており、偽陽性・疑陽性に伴う受診者の不利益が心配される。

②乳がん検診について

- ・2021年現在、対策型検診としては40歳以上の女性に対するマンモグラフィ（MMG）検診のみが推奨されている。
- ・検診方法については50地区（84.7%）の施設からのデータとなるが、国の方針通りのMMGのみを40歳以上に施行している地区が20地区（40.0%）、視触診並びにMMGを40歳以上に施行しているのが29地区（58.0%）、超音波のみを30歳代に施行しているのが3地区（6%）、20～39歳に超音波のみを施行しているのが1地区（2%）、30歳代に視触診のみを施行しているのが2地区（4%）となっており、子宮がん検診よりもはるかに多くの指針外検診が施行されているのが現状である。
- ・30歳代のエコーによる乳がん検診の是非について
第2回委員会の中で松本和紀副会長より現在、日本産婦人科医会において、「妊娠・産褥期およびプレコンセプションにおける乳がん検診の意義とその推進に向けて」というテーマで、乳がん検診に対する改善を叫ぶ動きがあるとの報告があった。具体的には、2018年12月に成立した成育基本法をもとに、厚労省指針による現在の対策型検診で規定された40歳以上のマンモグラフィ単独による検診に対し、小児～AYA世代のがん罹患率において、30歳代で22%と最も多い乳がんを早期に発見するために①妊婦検診、産褥検診への乳がん検診（超音波）の導入②プレストアウェアネスの普及開発を含めたプレコンセプションケアの推進を勧める動きがあるとの説明があり、本課題についての討議を行った。その際、産婦人科乳腺学会理事関根憲委員より「プレコンセプションケアの観点から、妊婦健診、産褥健診への

乳がん検診（超音波）導入には、精度管理の面からも無理がある。死亡率減少効果を証明するには、まだ、時間がかかることから、いずれ、超音波も対策型に導入されることになると思う（何らかの指標で）。ブレストアウェアネスという言葉は、患者さんはほとんど知らない。まずは、これを普及させることが大事である。」との貴重な発言があり、今後理事会においても検討することとなった（後述）。

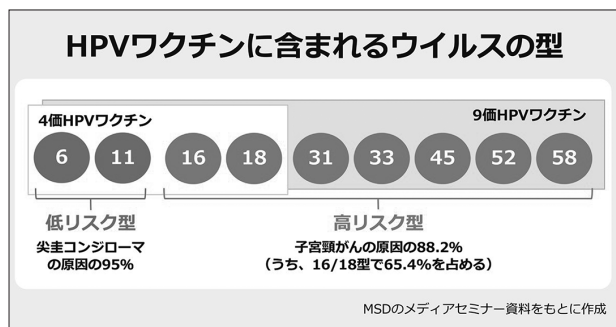
Ⅱ.がん対策部としてのその他の活動

主にHPVワクチンの話題を中心に理事会報告を行い、理事の皆様との知識の共有を図った。

1. HPVワクチンについての情報の共有：

○HPV9価ワクチンについての報告（第4回理事会にて報告）

★9価ワクチンの子宮頸がん予防効果は88.2%となっている。



★わが国でも令和2年度第一回薬事・食品衛生審議会医薬品第二部会（2020年7月21日）において承認された。

ちなみに世界におけるHPVワクチンの予防接種スケジュールへの導入は以下のようになっている。

国別にみたHPVワクチンの国の予防接種スケジュールへの導入								
Programs	Australia	France	Germany	UK	Denmark	Sweden	USA	Japan
NIP Introduction (male)	2007 (2013)	2007	2007	2008	2009	2012	2006 (2011)	2013
Routine Vaccination	12-13	11	12-17	12-13	12	10-12	11-12	12-16
Catch-up Vaccination	13-26	12-20	----	13-17	13-15	13-17	13-26	----
NIP vaccine	2HPV 4HPV 9HPV	2HPV 4HPV 9HPV	2HPV 4HPV 9HPV			2HPV 4HPV 9HPV	9HPV	2HPV 4HPV

NIP=national immunization program.

★国内で販売されているワクチンは3種となり、対応するHPV型、予防できる疾患、投与方法、接種対象者は下記のように定められている。

HPVワクチンをめぐっては、昨年（2021年）末、ガーダシルが肛門がんに適応拡大するとともに、男性への接種が承認された。

国内で販売されているHPVワクチン			
*いずれも薬価はついておらず、各医療機関で価格は異なる			
	サーバリックス（2価）	ガーダシル（4価）	シルガード9（9価）
製造販売元	グラクソ・スミスクライン	MSD	MSD
HPV型	16、18	6、11、16、18	6、11、16、18、31、33、45、52、58
予防できる疾患	▽子宮頸がん	▽子宮頸がんと前駆病変 ▽外陰上皮内腫瘍1/2/3と 腫上皮内腫瘍1/2/3 ▽肛門がん	▽子宮頸がんと前駆病変 ▽外陰上皮内腫瘍1/2/3と 腫上皮内腫瘍1/2/3 ▽尖圭コンジローマ
投与方法	筋肉内接種(0/1/6カ月目)	筋肉内注射(0/2/6カ月目)	筋肉内注射(0/2/6カ月目)
接種対象者	10歳以上の女性	9歳以上の者	9歳以上の女性
公費助成	小学校6年生～高校1年生相当の女子 (対象者のみ公費助成を受けられる、積極的勧奨差止め中)		任意接種
発売年	2009年	2011年	2021年

添付文書などをもとに作成

○HPVワクチンに関する厚生労働省通知について

日本産婦人科医会の木下勝之会長より「HPVワクチンに関する厚生労働省通知」の内容について周知徹底を図るよう指示があった（2022/01/14）。

平成25年6月14日付の健康局長通知以来、HPVワクチンに係る定期接種の積極的勧奨中止となっていたが、令和3年11月26日付の本通知（資料1）をもって積極的勧奨中止が廃止となりそれに伴い以下のような改正が行われる：

- ①予防接種法の規定により、市町村長は対象者またはその保護者に対して予診票の個別送付を行うほか、接種実施医療機関における接種体制の準備等を進め、基本的に令和4年4月から（前倒しも可能）接種を個別に勧奨する。
- ②定期接種の対象年齢は、12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間（小学6年から高校1年相当年齢）の女子であるが、対象年齢の高い順に個別勧奨を進めることが考えられる。
- ③市町村長は、接種後の体調の変化に対して地域において適切に相談や診療が行われる体制の確保や副反応報告が行われるよう医療機関との連携が求められている。また、都道府県は協力医療機関の医師等に対して、厚生労働省が定期的に開催する研修会を受講するよう勧め、接種後有害症状からの相談を一元的に受け付けて個別の状況に応じて柔軟に対応する機能を維持しているか確認し、体

[illegible][illegible]

令和4年2月24日厚生労働省は各都道府県市町村衛生主管部（局）に対し、以下の通達を行った。なお、日本医師会・日本医学学会に対しても本件に係る周知協力を依頼している。

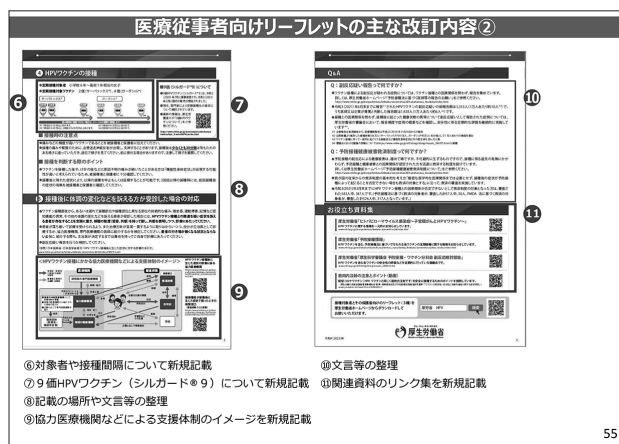
別紙1「接種の対象年齢のお子様及びその保護者向けリーフレット（概要版）」

別紙2「接種の対象年齢のお子様及びその保護者向けリーフレット（詳細版）」

別紙3「接種したお子様及びその保護者向けリーフレット」

別紙4「接種に関係する医療従事者向けリーフレット」

[illegible]



2. 子宮頸がん検診におけるHPV検査の導入についての情報整理及び課題の確認

①有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019年版のおさらい：

厚生労働省が組織する「がん検診の在り方に関する検討会」での協議を経て「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（指針）」として自治体に通知されている検診手法の根拠の一つとして、2020年に公表された「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン2019年版」がある。そこでは細胞診単独法とHPV検査単独法とが同じグレードAとして推奨されている。現行の指針に記載されている細胞診単独法から、HPV検査単独法へと移行すべきかについては、HPV検査単独法での健診結果別の取り扱いの流れ（アルゴリズム）やそのために必要な体制、実現可能性も含めて検証が進行しつつあり、それらの結果をもって、将来の「がん検診の在り方などに関する検討会」での検討が行われ、指針に掲載されることになる。

②厚労省がん検診の在り方に関する検討会における「子宮頸がん検診に関する最新報告」の情報共有：

○HPV検査を用いた子宮頸がん検診の運用上の課題：

あらたにHPV検査を導入した場合には、課題として⑦アルゴリズムの複雑化、④要精検率増加への対応、⑤HPV検査陽性者の大半（例：細胞診陰性/HPV陽性）はその時点では病変を有さず、そのごく一部が数年後に有病者となり得るため、リスク保持者の長期間の追跡管理が検診の効果に大きく影響するなどの点があげられている。

そこで慶応義塾大学医学部産婦人科教室の青木大輔教授を中心としたグループは厚労科研費補助金（がん対策推進総合研究事業）による「わが国の子宮頸がん検診におけるHPV検査導入の問題点と具

体的な運用方法の検討」を行い、2021年3月17日の第32回がん検診の在り方に関する検討会において以下のような成果を報告された。

○研究成果内容及び結果：

まず、要精検者と精密検査の定義づけを施行した。カナダのFOCAL研究の例であるが、要精検者というのは、ベースラインの検診で陽性とされたもの全て、スクリーンポジティブになる。

そして、精密検査を3つに分類し1つは、コルポ生検、これを確定精検と呼び、2つ目は、トリアージ精検である。これはベースラインの検診判定直後に疾患リスクの選別を目的で実施する確定精検以外の検査と位置づける。3つ目は、追跡精検と名付けているが、ベースラインの検診判定後、確定精検をやらずに実施する確定精検、トリアージ精検以外の検査と定義づけをした。

細胞診単独と比較したHPV検査を判定に導入した検診では、細胞診単独と比較して、特に6～12ヶ月後の追跡精検の対象者が増加することが判明したと報告している。

○検診・精密検査のデータの収集とその精度管理体制についての検討と今後の予定：

さらに青木教授らは……HPV検査を検診に判定に導入することを念頭に置き、地域保健・健康増進事業報告の報告については、今まで以上に受診者ごとの経時的な検診結果、精検結果を把握することの重要性が増す可能性が高いことより報告様式の変更や、HPV検査の管理や追跡精検への対応を中心に「チェックリストの項目」を増加させる必要があることが判明した。新たな検診手法としての子宮頸がんプログラムへのHPV検査の導入に際しては、ガイドラインは決定されたものの、受診者の利益が最大になり不利益が最小になるためのアルゴリズムに併せて、結果の把握・長期追跡などの課題も解決せねばならず、オーストラリアの例に習い、決して拙速にならぬよう完成までに慎重に時間をかけるべきと考える。……

と述べている。

③日本産婦人科医会会報（2021年12月）の「医会として細胞診＋HPV検査併用法を推奨する」との記事についての討論

日本産婦人科医会報の2021年12月号に医会独自のHPV検査を含む検診について以下の指摘があり、本会でも討議を行った。

○子宮頸がんの現況とがん検診ならびに検診ガイドラインの課題・問題点についての指摘：

①2019年版改定ガイドラインの問題点としては、欧米のエビデンスのみを基に作成しているため、わが国の現状に合わない。

先進国では減少傾向にある子宮頸がん罹患率、死亡率が、わが国だけが増加を続けており、状況が大いに異なる。わが国では検診受診率もワクチン接種率も先進国で最低レベルであることから、欧米データを基に作成したガイドラインをそのまま適用することは適切ではない。

②運用するための情報が不十分（実際の運用法が示されていない）。

本ガイドラインでは、特にHPV検査を取り入れた検診の実施法が示されておらず、実際の検診での運用法が提示されていないなどの指摘があった。

○細胞診・HPV検査併用検診の有用性と課題についての指摘：

我々を含めたグループ（鈴木光明先生を中心とした）は細胞診・HPV検査併用検診全国8地域の併用検診成績の有用性について2021にInt J Gynaecol. Obstet. に投稿している。特に細胞診単独法に比し、⑦要精検率と病変発見率、⑧年齢階級別CIN2+発見率、⑨年齢階級別CIN3+発見率、⑩浸潤腺がん発見率の比較において有意に優れた結果を残しているが、現実には2019年の統計ではHPV検査併用検診を実施している自治体数は全体の13.6%の自治体検診に限られている。

普及が進まない理由として、併用検診は導入初期段階における費用の増加、検診結果毎の運用管理の難しさなど、運用上の課題が挙げられると指摘している。

○以上の根拠に基づく「2019年版改定ガイドライン」に対する「わが国の現状を踏まえたHPV検査導入法」への日本産婦人科医会の提言：

第1推奨としてのHPV検査上乗せ検診（細胞診をベースとしてHPV検査を上乗せする）：

従来の細胞診による検診をベースとして、節目年齢（指定年齢）にHPV検査を上乗せする方法である。全国のHPV検査導入事例を調査したところ、特定の年齢にHPV検査を施行している自治体がかなりみられた。クーポン券などを活用して、節目の指定年齢に細胞診に加えてHPV検査を上乗せする方法

である。

1）細胞診隔年検診の自治体：HPV検査を4年ごと、あるいは10年ごとに上乗せする。

2）細胞診毎年検診の自治体：HPV検査を5年ごと、あるいは10年ごとに上乗せする。

HPV検査上乗せ検診は以下の2つの利点があり、自治体にとってより導入しやすいと考えられるので本法を第1推奨とした。

i）細胞診・HPV検査併用検診（以下「併用検診」）では、検診結果ごとに次回検診の受診時期が異なることから、受診者の管理が容易ではなかった。HPV検査上乗せ検診は併用検診に比べて検診結果による受診者の管理が軽減され、運用が容易になる*。

ii）検診事業費が毎年均一となるため自治体が受け入れやすい。また、自治体の裁量で上乗せ時期（年齢）が選択できる。

※併用検診では、すべての受診者に対して検診結果ごとに検診間隔を1年後もしくは3年後として管理する必要がある。一方、HPV検査上乗せ検診では、1年後検診対象者（NILM/HPV陽性、ASC-US/HPV陰性）だけが管理対象となり、受診者の9割以上を占める“NILM/HPV陰性者は不要である”と述べている。

その後、日本産婦人科学会の宮城悦子教授担当のHPVワクチン・検診啓発推進委員会が中心となり、日本婦人科がん検診学会、日本臨床細胞学会、日本婦人科腫瘍学会と医会・学会の5団体でワーキンググループを立ち上げ、厚労省への提案を作成することになった。今回の提言により子宮頸がん検診の厚労省の指針がすぐに変えることは無いことが確認された。本会としても、学会を中心としたワーキンググループの意思決定を尊重することとなった。

2. 東京都医師会への要望書の提出（案）

大阪大学産婦人科の上田豊講師、八木麻未特任助教らのグループは、2021年にHPVワクチン接種率の激減による2000年度生まれの子宮頸がん検診細胞診異常率がそれ以前に生まれた女性に比して上昇している事実を報告した。「導入前世代」と「接種世代」で細胞診異常率の有意な差は認められなかったものの、「接種世代」の細胞診異常率は、「導入前世代」の上昇傾向から予測される率より低く、HPVワクチンの有効性が示唆されるものであった。しか

し、「停止世代」に当たる2000年度生まれ（接種率：10.2%）の細胞診異常率は5.04%と「接種世代」より有意に上昇し、「導入前世代」の傾向から予想される率に近い値を示した。「停止世代」で観察された細胞診異常の上昇は、積極的勧奨差し控えにより接種率が激減したことが原因であると考えられる。この結果は、接種を見送り対象年齢を越えた女子へのキャッチアップ接種の機会の提供および子宮頸がん検診の受診勧奨の強化を可及的速やかに行う重要性・必要性を強く示唆している。東京産婦人科医会は、次年度の東京都の予算に関して、令和4年度の東京都医師会への要望書として「20～22歳における子宮頸がん検診無料化に関する要望」を下記の内容にて提出予定である。

厚労省によるHPVワクチン接種を見送り、接種対象年齢を越えた女子へのキャッチアップ接種の機会の提供に加え、接種機会を逃した2000年度生まれの子宮頸がん検診対象者（現在22歳）に2001年度生まれ（現在21歳）、2002年度生まれ（現在20歳）を加えた3学年を対象に積極的な受診を促すための無料クーポンの個別配布に対する予算成立にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

Ⅲ. 令和4年度事業計画

来年度も、今年度に持ち越された昨年同様の各種課題をさらに検討し、改善することを決定した。

《献金部》

担当理事 堀 量博

献金部

担当副会長	荘 隆一郎
主担当理事	堀 量博
副担当理事	木口 一成
献金委員	
委員長	間崎 和夫
委員	青木 基彰
委員	島本 長青
委員	安江 育代
委員	岩倉 孝雄
委員	矢谷 達樹
委員	勝手 恵理子
委員	花岡 正智
委員	東館 紀子

私たちは、おぎゃー献金理念に適った障害養護施設の運営、大学の研究活動を援助することにより、障害児がより良い社会活動を送る一助となるように努力して参ります。

その目標のために献金担当者を各支部に置き、きめこまかい献金活動を展開しております。

【2022年度献金部事業計画】

1. おぎゃー献金活動参加者を拡充し献金額増加をはかる
2. 各地区献金担当者会議の運営
3. 東京都における献金配分施設と研究費補助配分機関を審査し日母おぎゃー献金基金へ推薦
4. 新型コロナウイルス感染症蔓延の状況下における、障害児通所施設の支援の検討

【事業報告】

1. 第1回献金部会委員会開催

日 時：令和3年11月12日（金）ルーテル市ヶ谷センター 1階会議室

出席者：山田正興、松本和紀、荘隆一郎、堀量博、木口一成、安江育代、岩倉孝雄、東館紀子、間崎和夫、花岡正智、勝手恵理子（敬称略）

議 題：令和3年度東京からの施設配分・小口配分・研究費配分機関の選定推薦
おぎゃー献金推進イベントについて等

2. 令和3年度会員への「おぎゃー献金」のご案内（チラシ発刊）

①第1回献金案内：令和3年8月

②第2回献金案内：令和3年12月

3. 令和3年度おぎゃー献金助成金交付採択結果

（1）施設助成金 1件

放課後等デイサービスくじら（車輛）

交付額 2,950,000円

（2）什器・備品等助成金 1件

東京カタリスの家子どもの家エラン（遊具）

交付額 500,000円

（3）研究助成金 5件

①昭和大学医学部産婦人科学講座（2回目）

交付額 1,500,000円

研究課題：妊娠初期母体血漿中 cell-free DNA のメチル化異常をマーカーとした妊娠高血圧腎症の発症予知法および病勢の評価法の開発

②順天堂大学産婦人科（1回目）

交付額 480,000円

研究課題：胎児心拍変動解析による新生児予後の予測

③慶應義塾大学医学部産婦人科学教室（1回目）

交付額 1,000,000円

研究課題：胎児肝血流量による胎児発育不全児の周産期予後の予測

④日本医科大学産婦人科（3回目）

交付額 1,500,000円

研究課題：子宮頸管におけるプロゲステロン消退を標的とした新規早産予防法の開発

⑤東京大学医学部産婦人科学教室（3回目）

交付額 1,500,000円

研究課題：HMGB1による血管内皮障害に着目した妊娠高血圧腎症に対する新規治療法開発

新型コロナウイルス感染拡大にともない、障害者養護施設の運営が厳しいものとなっています。施設運営の一助となるよう国や自治体から補助金等の情報提供を行って行き、引き続きさらなる検討を加え実りある献金活動を展開していきたいと思っております。

今回、おぎゃー献金イベントとして、例年の連絡会が開催できなかったため、写真家 山本美里氏

のWEB写真展：透明人間-Invisible Mom-を医会
ホームページ上に掲載、厚生労働省障害福祉課の北

澤直美氏による「医ケア児支援法」についての解説
をTAOGニュース2022年4月号に掲載されました。

令和3年度 おぎや一献金額

月	日産婦医会受		東産婦医会受		合計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
1	7	95,133	1	3,000	8	98,133
2	4	135,616	3	123,610	7	259,226
3	13	725,138	8	598,157	21	1,323,295
4	7	35,051	2	22,041	9	57,092
5	7	175,208	3	189,319	10	364,527
6	10	137,660	6	35,708	16	173,368
7	4	62,000	3	15,200	7	77,200
8	18	302,967	3	175,012	21	477,979
9	13	228,937	2	55,109	15	284,046
10	2	99,500	3	105,000	5	204,500
11	6	304,778	3	258,908	9	563,686
12	22	614,701	3	222,830	25	837,531
合計	113	2,916,689	40	1,803,894	153	4,720,583
					合 計	4,720,583

(平成28年)	520件	5,658,922
(平成29年)	450件	5,886,438
(平成30年)	402件	10,404,638
(令和元年)	376件	6,538,472
(令和2年)	333件	4,550,988

《学校保健部》

担当理事 長岡 美樹

学校保健部

担当副会長 対馬ルリ子
担当理事 長岡 美樹
副担当理事 中島由美子

学校保健委員

委員 東 哲徳
委員 池上 芳美
委員 江夏亜希子
委員 塚田 訓子
委員 深沢 瞳子
委員 冬城 高久
委員 丸橋 和子

学校保健部では東京都教育庁と協力して都内公立中学・高等学校への性教育の授業、養護教諭・保護者への教育支援などを主に活動しています。

本年度は、平成26年から7年間我々を牽引して頂いた吉野一枝前理事から理事の変更がありました。7月から新体制で活動しております。学校保健部の活動を益々充実させていけるように精進いたしますのでご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

＜令和3年度事業計画＞

1. 思春期保健モデル事業
都立高校、公立中学校における性教育の充実
2. 都立高校に向けた産婦人科専門医派遣推進
3. 公立中学校に向けた産婦人科専門医派遣定期事業化の検討
4. 産婦人科専門医派遣事業推進のための会員向け講演会定期開催
5. 養護教諭向け講演会開催
6. 特別支援学校への産婦人科専門医派遣検討
7. 性教育のIT化の検討

小括

1. 教育庁と円滑な協力体制のもとコロナ禍においても事業を推進できました。
2. 都立学校41校実施（資料1）
3. 公立中学校29校実施（資料2）
定期事業化決定

4. 学校専門医に関する講演会開催

日時：2021年11月29日（日）15：00～17：00

会場：東京都医師会館 2階ホール

演者：（一社）日本家族計画協会

北村 邦夫先生

「すぐに役立つDr北村の性教育実践講座」

あおり女性ヘルスケア研究所

蓮尾 豊先生

「青ヶ島中学校で行った私の性教育の実際」

参加人数：61人（申し込み68人）

5. 養護教諭向け講演会開催

日時：2021年12月15日（水）14：00～16：00

会場：TKP市ヶ谷（ZOOM開催）

後援：大塚製薬

演者：宮益坂メリーレディースクリニック

長岡 美樹

「今、性の健康教育で伝えたい事」

参加人数：33人（申し込み48人）

6. 来年度も継続課題

7. 2020年作成のモデルDVDを活用中。2022年は日本産婦人科医会版が完成予定のため、必要に応じ改定する。

8. その他

- 1) 東京都医師会主催「グループ医学賞」受賞
コロナ禍のため授賞式受賞講演などは中止。
賞金：100万円（東京産婦人科医会授受）
抄録：東京都医師会雑誌

令和4年7月号に掲載

この賞は東京都医師会が地域において活躍するグループを支援する目的で設けた賞で、優れた業績をあげたグループを表彰し助成金を贈るというものです。この度、我々の東京都公立高等学校・中学校における性教育の取り組みを評価頂きました。

2) 各地域専門医の選出について

公立中学校への「性教育の授業」事業拡大に伴い、各地域の講師育成が急務となっています。各医会長を通じて学校専門医を選出して頂き地元の先生に担当して頂ける事を目標としています。

3) 性教育講師育成について

性教育講師として活動をしていただける先生を募集しています。今年度は問い合わせが32名ありました。見学希望の先生方には見学して頂

く調整をしています。来年度は新規参入講師6名増員出来ました。子供たちの健やかな成長のためこの事業の取り組みは継続拡大していかなければなりません。そのためにはより多くの先生方にご協力いただかなければなりません。特に多摩地区の講師不足は深刻なため、多くの先生方にご協力いただきたいと考えています。

総括

コロナ禍にあっても時間は止まりません。今年度も皆様のご協力により、歩みを止めることなく活動することができました。感謝いたします。今年度は公立中学校「性教育の事業」定期事業化が決定し、養護教諭向け講演会の定期開催も獲得できました。社会情勢の流れもあり、学校教育の中で専門家の活躍が益々期待されていると感じます。

令和4年度は性教育事業に加え「生涯の健康に関する理解促進事業」も加わります。今後とも、ご支援ご協力の程よろしくお願いいたします。

令和３年度「性教育の授業」「専門家派遣事業」まとめ

(資料１)

	学校所在地	高校学校名	開催日	医師名	所属
1	あきる野市	秋留台高校（全日制）	12/6（月）	依光あゆみ	よりみつレディースクリニック
2	足立区	足立高校（定時制）	11/17（水）	池上 芳美	なずな会 池上レディースクリニック
		足立高校（定時制）	12/21（火）		
3	足立区	荒川商業高校（全日制）	12/15（水）	池上 芳美	なずな会 池上レディースクリニック
4	板橋区	板橋有徳高校（全日制）	10/20（水）	吉野 一枝	よしの女性診療所
5	あきる野市	五日市高校（全日制）	12/16（木）	金子 透子	青空レディースクリニック
6	あきる野市	五日市高校（定時制）	12/16（木）	金子 透子	青空レディースクリニック
7	青梅市	青梅総合高校（定時制）	7/15（木）	金子 透子	青空レディースクリニック
8	品川区	大崎高校（全日制）	7/15（木）	江夏亜希子	四季レディースクリニック
9	品川区	大崎高校（定時制）	6/24（木）	江夏亜希子	四季レディースクリニック
10	板橋区	大山高校（全日制）	12/22（水）	山下 有紀	板橋区医師会病院 産婦人科
11	八王子市	片倉高校（全日制）	7/9（金）	丸橋 和子	まろはし女性応援クリニック
12	葛飾区	葛飾野高校（全日制）	7/16（金）	宮國 泰香	東京都保健医療公社 東部地域病院
13	大田区	蒲田高校（全日制）	7/8（木）	高根 雅夫	高根クリニック
		蒲田高校（全日制）	12/2（木）		
14	北区	桐ヶ丘高校（定時制）	11/16（火）	深沢 瞳子	赤羽駅女性クリニック
15	文京区	工芸高校（定時制）	6/9（水）	塚田 訓子	アトラスレディースクリニック
		工芸高校（定時制）	7/12（月）		
16	小金井市	小金井工業高校（定時制）	7/16（金）	池田真理子	新愛会 東府中病院
		小金井工業高校（定時制）	7/9（金）		
17	小平市	小平西高校（全日制）	6/23（水）	畑中 諭	ヒマワリ会 畑中医院
		小平西高校（全日制）	12/15（水）		
18	練馬区	石神井高校（全日制）	6/14（月）	長岡 美樹	ひつじ会 宮益坂メリーレディースクリニック
		石神井高校（全日制）	7/16（金）		
19	新宿区	新宿山吹高校	10/21（木）	対馬ルリ子	フィーメールガーデン 対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座
20	世田谷区	世田谷泉高校（定時制）	9/29（水）	長岡 美樹	ひつじ会 宮益坂メリーレディースクリニック
		世田谷泉高校（定時制）	10/27（水）		
21	国立市	第五商業高校（全日制）	7/14（水）	毛利 素子	毛利もとこ女性クリニック
22	国立市	第五商業高校（定時制）	7/14（水）	毛利 素子	毛利もとこ女性クリニック
23	江東区	第三商業高校（全日制）	7/15（木）	江夏亜希子	四季レディースクリニック
		第三商業高校（全日制）	2/3（木）		
24	練馬区	田柄高校（全日制）	12/22（水）	吉野 一枝	よしの女性診療所
25	文京区	竹早高校（全日制）	7/14（水）	松葉 悠子	勝どきウィメンズクリニック
26	西東京市	田無工業高校（全日制）	12/16（木）	太田 寛	アルテミス ウイメンズ ホスピタル
27	青梅市	多摩高校（全日制）	5/21（金）	金子 透子	青空レディースクリニック
		多摩高校（全日制）	6/10（木）		
		多摩高校（全日制）	7/8（木）		
28	大田区	つばさ総合高校（全日制）	7/6（火）	対馬ルリ子	フィーメールガーデン 対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座
29	大田区	田園調布高校（全日制）	12/21（火）	宗田 聡	広尾レディース
30	練馬区	練馬工業高校（全日制）	7/12（月）	塚田 訓子	アトラスレディースクリニック
31	杉並区	農芸高校	7/19（月）	塚田 訓子	アトラスレディースクリニック
32	東久留米市	東久留米総合高校（全日制）	6/10（木）	太田 寛	アルテミス ウイメンズ ホスピタル
		東久留米総合高校（全日制）	7/15（木）		
33	東久留米市	東久留米総合高校（定時制）	7/14（水）	太田 寛	アルテミス ウイメンズ ホスピタル
34	東村山市	東村山西高校（全日制）	7/8（木）	太田 寛	アルテミス ウイメンズ ホスピタル
35	千代田区	一橋高校（3部制）	6/10（木）	窪 麻由美	佐藤会 フィーカレディースクリニック
		一橋高校（4部制）	7/19（月）		
36	日野市	日野高校（全日制）	10/15（金）	丸橋 和子	まろはし女性応援クリニック
		日野高校（全日制）	12/17（金）		
37	渋谷区	広尾高校（全日制）	7/15（木）	長岡 美樹	ひつじ会 宮益坂メリーレディースクリニック
		広尾高校（全日制）	12/17（金）		
38	世田谷区	町田高校（定時制）	7/7（水）	松葉 悠子	勝どきウィメンズクリニック
		町田高校（定時制）	9/29（水）		
39	西多摩郡瑞穂町	瑞穂農芸高校（全日制）	7/9（金）	依光あゆみ	よりみつレディースクリニック
40	西多摩郡瑞穂町	瑞穂農芸高校（定時制）	7/9（金）	依光あゆみ	よりみつレディースクリニック
41	八王子市	南多摩中等教育学校	1/13（月）	毛利 素子	毛利もとこ女性クリニック
		南多摩中等教育学校	1/19（水）		

(資料2)

	地区名	中学校名	開催日時		講師	医療機関
1	東大和市	第一中学校	7/1 (木)	14:30	太田 寛	アルテミス ウイメンズ ホスピタル
2	渋谷区	笹塚中学校	7/7 (水)	13:30	東 哲徳	東クリニック
3	文京区	第八中学校	7/7 (水)	10:40	松葉 悠子	勝どきウィメンズクリニック
4	江戸川区	上一色中学校	7/7 (水)	13:15	池上 芳美	池上レディースクリニック
5	立川市	立川第四中学校	3/11 (金)	13:00	池田真理子	東府中病院
6	大田区	大森第一中学校	7/13 (火)	13:35	出井 知子	ともこレディースクリニック下北沢
7	立川市	立川第五中学校	11/12(金)	11:50	丸橋 和子	まるはし女性応援クリニック
8	墨田区	桜堤中学校	10/14(木)	10:40	宮國 泰香	順天堂大学医学部附属順天堂医院 産婦人科
9	練馬区	開進第三中学校	10/12(火)	13:35	寺内 智子	寺内医院
10	武蔵野市	第四中学校	11/1 (月)	10:15	塚田 訓子	アトラス レディースクリニック
11	港区	青山中学校	11/10(木)	11:15	長岡 美樹	宮益坂メリーレディースクリニック
12	江戸川区	小松川第三中学校	3/3 (木)	14:25	江夏亜希子	四季レディースクリニック
13	目黒区	第一中学校	3/9 (水)	13:00	長岡 美樹	宮益坂メリーレディースクリニック
14	北区	浮間中学校	3/3 (木)	10:40	深沢 瞳子	赤羽駅前女性クリニック
15	多摩市	多摩永山中学校	3/3 (木)	10:20	金子 透子	青空レディースクリニック
16	青梅市	吹上中学校	12/9 (木)	14:15	金子 透子	青空レディースクリニック
17	狛江市	狛江第四中学校	3/2 (水)	10:30	加藤 有美	※複数の医療機関に勤務
18	奥多摩町	奥多摩中学校	3/2 (水)	13:30	毛利 素子	毛利もとこ女性クリニック
19	立川市	立川第二中学校	3/9 (水)	13:00	毛利 素子	毛利もとこ女性クリニック
20	新宿区	西新宿中学校	3/10 (木)	14:30	松本 和紀	松本レディースクリニック
21	世田谷区	弦巻中学校	3/10 (木)	13:30	冬城 高久	冬城産婦人科医院
22	西東京市	田無第一中学校	3/8 (火)	13:30	窪 麻由美	フィーカ レディースクリニック
23	練馬区	練馬中学校	3/9 (水)	13:35	吉野 一枝	よしの女性診療所
24	葛飾区	四ツ木中学校	3/8 (火)	13:30	対馬ルリ子	対馬ルリ子 女性ライフクリニック
25	世田谷区	用賀中学校	3/16 (水)	13:30	長岡 美樹	宮益坂メリーレディースクリニック
26	福生市	福生第三中学校	9/1 (水)	11:50		映像資料活用のため外部講師の派遣無
27	立川市	立川第五中学校	11/12(金)	11:15		映像資料活用のため外部講師の派遣無
28	小平市	小平第五中学校	11/24(水)	13:35		映像資料活用のため外部講師の派遣無
29	府中市	府中第七中学校				映像資料活用のため外部講師の派遣無